

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!

JCF 公益財団法人 日本自転車競技連盟広報誌

cyclism ech シクリスムエコー www.jcf.or.jp

第36回 アジア自転車競技選手権大会
第23回 アジア・ジュニア自転車競技選手権大会
第5回 アジア・パラサイクリング選手権大会
(東京都 大島町 / 静岡県 伊豆ベロドローム)

シクリスムエコー No.217 '16年2月・3月号

2016 ASIAN CYCLING PARACYCLING CHAMPIONSHIPS JAPAN OSHIMA-TOKYO IZU-SHIZUOKA



アジア選手権ロード (エリート/U23) 2
アジアジュニア選手権ロード 5
アジアパラ選手権ロード 7
日本新記録 8
競技大会結果 8
連盟の動き 9
今後の大会予定 9
日本代表選手団 9/11
NEWS 10
男子エリートロードランキング 10
平成27年度 第一級公認審判員講習会 11
競技規則集2016年改訂事項 概要説明 13
アジア選手権トラック (エリート短距離) 21
アジア選手権トラック (エリート中距離) 23
アジアジュニア選手権トラック 26
アジアパラ選手権トラック 30
アジア選トラックゴールドメダリスト 32

アジア選手権ロードレース (女子エリート) photo: Hideaki TAKAGI

KEIRIN



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
http://ringring-keirin.jp



Road Races (エリート/U23)

エリートの新城 photo: Hideaki TAKAGI

男子アンダー-23

1月という早期開催に向けて準備を万端に整えるべく、10月末時点で候補メンバーを推薦、対象選手には告知を行った。12月上旬には強化合宿、1月8日からはコース視察も含めて最終調整合宿を行い、本戦に臨んだ。

●男子U23個人タイムトライアル

山本大喜

準備合宿よりロードトレーニングとは別に、早い段階からTTバイクを使用したタイムトライアル向けのトレーニングを、単独で数回実施してレースに臨んだ。本戦は強風の悪条件の中、コース取りやペース配分等も良好に走り、現状の力を発揮した形で3位に入賞した。しかし優勝したモンゴルの選手からは大きなタイム差があり、優勝するには平均速度を更に2km/h上げる必要があり、今後の課題として取り組みたい。

U23の山本 photo: Hideaki TAKAGI



●男子U23ロードレース(119km)

徳田優、雨沢毅明、小橋勇利、秋田拓磨

レースは低気温で風があるものの想定していたコンディション下でスタートした。合宿終盤まで好調を保った徳田と雨澤で先行態勢を作る作戦で距離をこなす。しかし序盤のアタック合戦や、イランを中心とした登りでのペースアップがレース全体にダメージを与え、日本チームは他国の攻撃に対し後手に回る展開となる。終盤チームは消耗しながらも、雨澤を先頭グループに残すように動いて最終局面に入るが、イランとベトナムの先行をゆるし、雨澤は3位以下のスプリントで脚を

残せず6位でのゴールとなった。

反省点は準備段階でのトレーニングにおいて、コースの特性上、登り坂でのスピードと持久力を重視し、アタック合戦に適應するためのトレーニングが不足であったこと。また最終合宿に参加した時点で、全体的にそれまでの準備トレーニングが足りていなかったこと。4人のチームでありながらレース中のチームワークが整っていなかったことがあげられる。

今後、この状態でネイションズカップや国際レースに参加しても、大変な苦戦が予測される中、本カテゴリーは根本的な強化方法の見直しが必要である。



U23のスタート photo: Hideaki TAKAGI



U23のトップ集団 photo: Sonoko TANAKA

男子エリート

エリートカテゴリーにおいては、一部の選手を除き、自主トレにて本戦まで調整してもらった。別府はU23合宿に途中から参加してもらい、最終調整とU23選手へのアドバイスも行ってもらった。

●男子エリート個人タイムトライアル 増田成幸

前日のU23と比較すると風も弱く、低温ではあるが良いコンディションでのスタート。ライバルにはハギ(イラン)、ワッカー(キルギスタン)、チェン(香港)、チョ(韓国)を想定し、途中のタイム経過を観察して選手に伝える。

増田は序盤他選手よりもスローペースで入り、中盤から若干ペースアップを図って追いつけるが、メダルまであと一歩の4位の成績に終わった。優勝したチェンは途中チェーントラブルでペースダウンの場面もあったが、終盤追いつけてトップタイムでゴール。2位のチョ(韓国)は終盤までダントツのトップタイムを重ねたが、ラスト5kmで大失速して2位に転落した。増田はペース配分が参加選手の中で一番安定してお

エリートの増田 photo: Hideaki TAKAGI



り、準備と経験を活かし自分の力を発揮できた。4位ながらもトップから僅か14秒差は悪くない成績といえる。

●男子エリートロードレース(119km) 新城幸也、別府史之、畑中勇介、内間康平

今回は新城と別府を両エースに立て展開に応じてどちらかが優勝を狙う事でスタート。レースは強風の中、序盤からイラン勢が登りでのペースアップやアタックを仕掛け、常に体力を使う展開で進む。アタックの対応は畑中と内間が動き、要所では新城と別府が落ち着いて対応。序盤に畑中が落車に巻き込まれ負傷、暫く走るがリタイヤする。内間もアタック対応で脚を削り、登りで遅れ始めた。中盤になると11名に絞られ、一旦動きが止まった集団から香港のチェンが単独アタック。1分近く離れたところで危険を感じた新城が追走に入る。徐々にタイム差を詰め



エリートの別府 photo: Sonoko TANAKA

る中、後続グループの別府は集団をコントロールする。しかし新城はチェンとのタイム差を10秒以内まで詰めながらも、ゴールまでには追いつくことが出来ず2位となった。

後続は別府がスプリントをトップで入り3位に。優勝は逃したが2人が表彰台に上がる結果となり、日本はアジアツアーロード国別ランキングでトップに立った。今回はチームとして良い連携で強敵イランを崩すなど、理想的にレースを運ぶことが出来た。新城は優勝を惜しくも逃したが、個人TTを制し強風の中3周にわたり新城の追走を振り切ったチェンの走りを評価したい。

またレース後に畑中の腰椎横突起骨折が明らかになった。早期回復と復帰を願う。(浅田 顕)

女子エリート

リオオリンピックの出場枠が5月31日時点での世界国別22位以内の国に2枠、それ以外では個人ランキング100位以内の選手・又はアジア選手権優勝者のいる国に1枠与えられる。

アジア選手権優勝、あるいは複数人が上位のポイントを獲得することにより国別22位も可能性はあるが、最も確率の高い萩原の個人ランキング100位以内を確実にすることを目標として臨んだ。そのためTTを萩原、ロードは萩原にポイントを集めるため、他の選手はアシストという位置づけを明確にした上で、事前合宿等の準備をして臨んだ。

●女子エリート個人タイムトライアル

海岸沿いの細かなアップダウンと、カーブが多い往復11.2kmを2往復、22.4kmで競われた。どちらかと言うと後半に強い萩原は、最初から全開で入



女子エリートの萩原 photo: Hideaki TAKAGI

る韓国LEEに1回目の折り返しでは10秒ほど遅れたが、後半追い上げ0.2秒の僅差で競り勝ち1位となった。UCIポイントを12p獲得し、オリンピック出場枠獲得に幸先良いスタートとなった。

●女子エリートロードレース(107.1km)

最もマークすべきは韓国。前半から中盤の韓国その他の動きには、全て坂口と與那嶺が対応し、中盤から後半に登りで金子を中心にペースを上げ、他の国の脚を削ったところで萩原が行く作戦。序盤から韓国全員が先頭に固まる。そのすぐ後ろに金子・坂口・萩原がいつでも動けるように走る。與那嶺は

調子が悪いのか前方にはいない。前半、與那嶺が動けず、そのかわり金子が対応に回ったため後半の作戦に狂いが生じたが、2周を残して登りで萩原がアタック。韓国のNaが付いて行く。2人の先行の後、中国Puと與那嶺が合流し先行4名となる。数的有利な状況にも

拘わらず、4名のゴール勝負で萩原3位・與那嶺4位に終わった。

コーチの読みと作戦は正しかったが、歯車が1枚狂った結果であった。しかし萩原はTTと合わせて39p獲得出来、最低限ではあるが個人ランキング100位以内には大きく前進した。(三宅秀一郎)



女子エリートの萩原 photo: Sonoko TANAKA

【競技結果】

第36回アジア自転車競技選手権大会ロードレース (2016/1/19-24 東京都・大島町)

個人タイムトライアル

男子エリート(44.8km)

- 1 CHEUNG King Lok HKG 1:00:15.50
- 2 CHOE Hyeongmin KOR 1:00:22.91
- 3 HAGHI Alireza IRI 1:00:25.03



- 4 増田 成幸 栃木 ブリッツェン 1:00:29.44

男子U-23(33.6km)

- 1 MARAL-ERDENE Batmunkh MGL 45:22.32
- 2 FUNG Ka Hoo HKG 46:10.16
- 3 山本 大喜 奈良 鹿屋体大 46:26.95



女子エリート(22.4km)

- 1 萩原麻由子 群馬 Wiggle 32:25.17
- 2 LEE Jumi KOR 32:25.38
- 3 PANG Yao HKG 34:05.23



ロードレース

男子エリート(119.0km)

- 1 CHEUNG King Lok HKG 3:25:34
- 2 新城 幸也 JPCA ランプレメタ* 3:25:41
- 3 別府 史之 JPCA トック 3:30:12



- 内間 康平 沖縄 ブリヂストンアンカー DNF
- 畑中 勇介 東京 チーム右京 DNF

男子U-23(119.0km)

- 1 RAJABIKABOODCHESHEM M. IRI 3:07:29
- 2 HUYNH Thanh Tung VIE 3:07:29
- 3 GANJKHANLOU M. IRI 3:08:41



photo: Sonoko TANAKA

- 6 雨澤 毅明 栃木 ブリッツェン 3:08:46
- 12 小橋 勇利 愛媛 シュルレーン* 3:13:14
- 13 秋田 拓磨 福井 朝日大 3:14:29
- 15 徳田 優 京都 鹿屋体育大 3:14:36

女子エリート(107.1km)

- 1 NA Ahreum KOR 3:17:53
- 2 PU Yixian CHN 3:17:53
- 3 萩原麻由子 群馬 Wiggle 3:17:53



- 4 與那嶺恵理 茨城 FORZA 3:17:53
- 9 金子 広美 三重 什-メ信濃 3:20:22
- 15 坂口 聖香 兵庫 パナソニックL. 3:21:11

photo: Hideaki TAKAGI (この頁の表彰写真、1枚以外全て)



女子ジュニア下山のフィニッシュ photo: Hideaki TAKAGI

女子ジュニア

●女子ジュニア タイムトライアル

細谷夢菜をエントリー。ゴール前のスピードを武器にする選手であり、トラックとロード両種目参加の最初のレースであったが5位に入った。横風、向かい風、追い風と変わる風向きに、自分のリズムをうまくつかめなかった。



女子ジュニア細谷 photo: Hideaki TAKAGI

●女子ジュニア ロード (71.4km)

細谷夢菜、下山美寿々の2名が参加した。レースは1周目の平坦区間で、TT優勝のCHANG TING TING (チャイニーズ台北) が攻撃し、それに下山が反応して逃げができる。そのまま香港が追いかける集団に、周回ごとに大きく差をつけてマッチレースとなった。最後は集団に6分以上の差をつけて

スプリント勝負となり、向かい風の中ゴール前まで我慢した下山が抜け出して優勝した。3位争いは集団内で粘った細谷がスプリントで圧倒して3位となった。



女子ジュニア下山と細谷 photo: Sonoko TANAKA

男子ジュニア

●男子ジュニア タイムトライアル

昨年から独走力を大きく向上させている渡邊歩をエントリーした。追い風区間、向かい風区間の差が激しい海外沿いのコースで、今出しうる力をすべて出し切り3位入賞した。

優勝は昨年のジュニア世界選手権TTでも15位に入った、カザフスタンのPRONSKIY Vadimが圧勝した。渡邊は2位争いで最後大きくタイム差を詰めたが、イランのJAMSHIDIAN Amir Hossに5秒届かなかった。

●男子ジュニア ロード (107.1km)

ジュニア男子は9周で行なわれた。



男子ジュニアの渡邊 photo: Hideaki TAKAGI

カザフスタンが前年コースの厳しいネイションズカップと世界選手権TTで上位に入った選手でのチーム構成であったので、厳しいレースになることが予想された。

1周目は穏やかに進むが、小野が下りでパンク、ニュートラルの対応で集



男子ジュニア photo: Sonoko TANAKA

団復帰を果たす。平坦区間ではカザフスタンの選手もパンク、落車した影響もあり、集団は細かなアタックがありながらも穏やかに進む。中盤からは集団は、登りではカザフスタン、ベトナムと台湾勢のペースアップにより小さくなり、また平坦区間で一つになることを繰り返す。ラスト2周にカザフスタンとベトナムが登りで抜け出し、花田もこの2名から少し遅れて山頂を通過するが追いつけない。カザフスタンとベトナムはそのまま協調体制でゴールまで行き、スプリント勝負でULYSBAYEVが優勝した。最後まで集団に残った吉岡が花田のために献身的に動き、ゴール前は花田を連れて先行する。そこから花田が小集団のス

プリントを制し3位となった。

(柿木 孝之)

【競技結果】

第23回アジアジュニア自転車競技選手権大会
ロードレース
(2016/1/19-24 東京都・大島町)

男子ジュニア個人タイムトライアル (22.4km)

- 1 PRONSKIY Vadim KAZ 30:55.27
- 2 JAMSHIDIAN GHALEHSEFIDI A.H. IRI 32:24.91
- 3 渡邊 歩 福島 学法石川 32:29.91



女子ジュニア個人タイムトライアル (11.2km)

- 1 CHANG Ting Ting TPE 17:15.30
- 2 MA Yin Yu HKG 17:26.22
- 3 BATRIYA Chaniporn THA 17:54.75



- 5 細谷 夢菜 埼玉 浦和工高 18:18.07

男子ジュニアロードレース (107.1km)

- 1 ULYSBAYEV Dinmukhammed KAZ 2:50:23
- 2 PHAN HOANG Thai VIE 2:50:23
- 3 花田 聖誠 東京 昭和第一高 2:51:34



- 6 吉岡 衛 奈良 奈良北高 2:51:35
- 10 渡邊 歩 福島 学法石川高 2:55:49
- 13 小野 寛斗 神奈川 横浜高 2:57:17

女子ジュニアロードレース (71.4km)

- 1 下山美寿々 大坂 大阪教育附 2:13:09
- 2 CHANG Ting Ting TPE 2:13:09
- 3 細谷 夢菜 埼玉 浦和工業高 2:19:55



photo: Hideaki TAKAGI (この頁の表彰写真)

新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworld

JAPAN AIRLINES

第5回アジア・パラサイクリング選手権大会ロードレース
(2016/1/20 東京都・大島町)

MC1-5 (22.4km)

- 1 藤田 征樹 茨城 日立建機 31:42.05
- 2 石井 雅史 東京 みらい創造 33:24.52
- 3 DA COSTA Julio TLS 46:27.50



MT1-2 (11.2km)

- 1 小川 睦彦 東京 杉並区 24:35.81



MB (22.4km)

- 1 ROMZI/RASOL MAS 37:50.11
- 2 RIZAN/MUHAMED SUFIAN MAS 41:29.17



WB (22.4km)

- 1 鹿沼由理恵・田中まい 34:32.34



Para Cycling
(パラサイクリング)

WBのスタート
photo: Yuko SATO (この頁全て)

日本初開催のアジアパラサイクリング選手権大会、ロードレースは東京都大島町で開催された。

当初予定のチームリレーがエントリーの関係でキャンセルとなり、また1月19日開催予定のタイムトライアルは悪天候のために翌1月20日に延期となった。

最終的には、MC、MT、MB、WBの4種目が行われ、3種目を日本勢が勝利した。



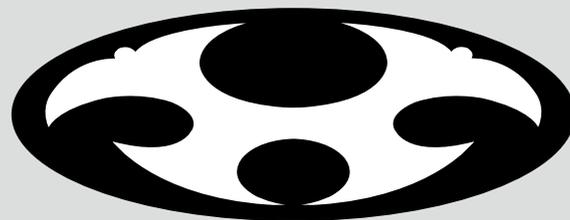
MTの小川



MC1-5の藤田



MC1-5の石井



Kabuto

Safety Meets Style





日本新記録 Japan New Record

■スタンディングスタート

・1km

男子ジュニア 1'03"561 沢田 桂太郎 (宮城・東北高校)

2016/1/28 静岡・伊豆ペロドローム

・4km 団体

男子エリート 4'03"819 日本 (窪木一茂、一丸尚伍、近谷涼、原田裕成)

2016/1/27 静岡・伊豆ペロドローム

女子エリート 4'34"752 日本 (塚越さくら、上野みなみ、中村妃智、梶原悠未)

2016/1/27 静岡・伊豆ペロドローム

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

2015-2016トラックワールドカップ第3戦 (2016/1/15-17 ホンコン・チャイ)

男子スプリント

- 1 CONSTABLE Patrick AUS
- 2 XU Chao CHN
- 3 KENNY Jason OBE GBR
- 20 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 25 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 33 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

男子ケイリン

- 1 BUCHLI Matthijs NED
- 2 BARRETTE Hugo CAN
- 3 IM Chaebin KOR
- 5 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井
- 17 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島

男子ホムニアム

- | | |
|---------------------------|------|
| 1 BOUDAT Thomas FRA | 181p |
| 2 HANSEN Lasse Norman DEN | 175p |
| 3 ZAKHAROV Artyom KAZ | 172p |
| 12 窪木 一茂 和歌山 NIPPO | 92p |

男子チームスプリント

- | | |
|---------------------|--------|
| 1 Great Britain GBR | 43.751 |
| 2 Poland POL | 43.802 |
| 3 Russia RUS | 43.910 |
| 9 日本 雨谷・中川・渡邊 | 44.611 |
| 12 JPC 河端・新田・和田 | 44.814 |

女子スプリント

- 1 JUNHONG Lin CHN
- 2 LEE Wai Sze HKG
- 3 VOINOVA Anastasiia RVL
- 24 前田佳代乃 京都
- 28 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子ケイリン

- 1 KRUPCEKAITA Simona LTU
- 2 MORTON Stephanie JAY
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 17 前田佳代乃 京都
- 25 梶田 舞 JPCA JPCU 栃木

女子スクラッチ

- 1 SHMAYANKOVA Marina BLR
- 2 TROTT Laura GBR
- 3 YANG Qianyu HKG
- 6 上野みなみ

女子ポイントレース (20km)

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1 D'HOORE Jolien BEL | 17p |
| 2 GLAESSER Jasmin CAN | 13p |
| 3 NELSON Emily GBR | 11p |
| 7 上野みなみ | 7p |

女子ホムニアム

- | | |
|----------------------|------|
| 1 TROTT Laura GBR | 188p |
| 2 HAMMER Sarah USA | 170p |
| 3 BERTHON Laurie FRA | 166p |
| 11 塚越さくら 鹿児島 鹿体大大学院 | 105p |

女子チームスプリント

- | | |
|---------------------|--------|
| 1 RUSVELO RVL | 33.035 |
| 2 Great Britain GBR | 33.625 |
| 3 Spain ESP | 33.541 |

15 日本 石井・梶田 35.661

女子チーム・シュート

- | | |
|---------------------|----------|
| 1 Canada CAN | 4:19.737 |
| 2 Great Britain GBR | 4:20.034 |
| 3 United States USA | 4:21.412 |
| 14 日本 塚越・上野・中村・古山 | 4:40.257 |

第2回寛仁親王記念ワールドグランプリ

国際自転車競技大会

(2016/2/6-7 静岡・伊豆パドールム)

男子エリートスプリント

- 1 SOGA Keisuke Meiji Univ.
- 2 SARAYA Yutaka IGNAM
- 3 SAKAMOTO Keiya AOMORI

男子エリート1km タイムトライアル

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1 SARAYA Yutaka IGNAM | 1:07.693 |
| 2 KITAZAWA Ryutarou IGNAM | 1:13.001 |

男子エリートホムニアム

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1 SHIMMURA Minoru Hosei Univ. | 243p |
| 2 CHEN Chien Liang TPE | 237p |
| 3 NAKAMURA Ryutarou IGNAM | 216p |

男子エリートマディソン

- 1 Hosei Univ. SHIMMURA/ARAI
- 2 IGNAM SARAYA/NAKAMURA
- 3 Doshisha Univ. KAWAMOTO/USAMI

男子エリートチームスプリント

- | | |
|--------------------------|--------|
| 1 IGNAM SHINANO YAMAGATA | 50.545 |
| SARAYA/NAKAMURA/KITAZAWA | |

男子チーム・シュート

- | | |
|--------------------------|----------|
| 1 IGNAM SHINANO YAMAGATA | 4.38.864 |
|--------------------------|----------|

サイクリストと共に開発した製品でサイクリストの健康と勝利に貢献します



Meitan SuperAthlete

株式会社 梅丹本舗

梅丹本舗は、JCF日本自転車競技連盟のオフィシャルスポンサーです。日本ナショナルチームを応援しています。

連盟の動き (12月中旬～3月中旬)

12月19日	ジュニア合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～12/23)
23日	トラック短距離合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～12/27)
23日	トラック中距離合宿	於：オーストラリア (～1/7)
28日	BMX合宿	於：オーストラリア (～1/5)
1月6日	ジュニア合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～1/10)
9日	ロードアジア選直前合宿	於：東京・大島町 (～1/12)
20日	2016年シクロクロス世界選日本代表選手団出発	於：ベルギー 帰国→2/2
25日	ACC理事会・ACC総会	於：東京・浜松町 世界貿易センタービル
30日	トラック合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～2/3)
2月4日	ジュニアロード合宿	於：沖縄 (～2/8)
5日	U23ロード強化合宿	於：埼玉 (～2/11)
19日	平成27年度第3回総務委員会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
23日	トラック世界選直前合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～2/25)
25日	ジュニアトラック合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～2/29)
26日	平成27年度第1回広報委員会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
26日	平成27年度第3回常務理事会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
26日	2016年トラック世界選日本代表選手団出発	於：イギリス 帰国→3/8
3月4日	平成27年第4回競技運営委員会	於：東京・自転車総合ビル 601会議室
4日	平成27年度第5回理事会	於：東京・自転車総合ビル 601会議室
10日	トラック合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～3/14)
17日	リオ五輪男子ロード候補選手発表記者会見	於：東京・自転車総合ビル 7階会議室
17日	第6回広報部会	於：東京・自転車総合ビル 7階会議室 (～18日)
18日	平成27年度第2回評議員会	於：東京・自転車総合ビル 7階会議室

今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
4月16日	ひたちなかBMX国際大会 Day1	BMX	茨城県・国営ひたちなか海浜公園
4月16日～17日	全日本選手権自転車競技大会-トラック	TR	静岡県・伊豆ペロドローム
4月16日～17日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・トラック	PARA	静岡県・伊豆ペロドローム
4月17日	ひたちなかBMX国際大会 Day2	BMX	茨城県・国営ひたちなか海浜公園
4月23日～24日	全日本選手権自転車競技大会-トライアル	TRIAL	長野県・佐久市ミレニアムパーク
5月2日～5日	Coupe du Japon びわこ高島STAGE DHI, XCO	MTB	滋賀県・高島市
5月4日～8日	アジア・マウンテンバイク選手権大会	MTB	タイ・チャイナート
5月14日～15日	Coupe du Japon やわたはま国際 XCO	MTB	愛媛県・八幡浜市
5月23日	第63回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース	TR	静岡県・伊東競輪場
5月25日～29日	UCI BMX世界選手権大会	BMX	コロンビア・メデリン
5月27日～29日	Coupe du Japon 富士見パノラマ DHI, XCO	MTB	長野県・富士見町
5月29日	全日本学生選手権 チーム・ロード・タイムトライアル大会	RR	埼玉県・加須市/羽生市 利根川河川敷
5月29日～6月5日	ツアー・オブ・ジャパン	RR	大阪府～東京都

'15-16UCIトラックワールドカップ第3戦 日本代表選手団

大会名	2015-2016UCIトラックワールドカップ第3戦
開催日程	2016年1月15日～17日
派遣期間	2016年1月10日～18日
開催場所	ホンコン・チャイナ
代表選手団	
監督	坂本 勉 (短距離ヘッドコーチ)
コーチ	飯島 誠 (中距離ヘッドコーチ) 小田島梨絵 (アシスタントナショナルコーチ)
メカニック	森 昭雄 (強化支援スタッフ)・斎藤 健吾 (高村製作所)
マッサー	中山 真臣・奥隅 信幸 (共に小守スポーツマッサージ療院)
スタッフ	村田 正洋 (情報・科学スタッフ)
ドクター	内田 彰子 (つくば体力医学研究所)
選手	中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本) 渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島) 雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木) 新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島) ※ JPC 河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山) ※ JPC 脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井) ※ JPC 和田真久留 (JPCA・JPCU 神奈川) ※ JPC 窪木 一茂 (和歌山・NIPPO-VINI FANTINI) 梶田 舞 (JPCA・JPCU 栃木) 石井 貴子 (JPCA・JPCU 千葉) 前田佳代乃 (京都) ※ JPC 上野みなみ (青森・鹿屋体育大学大学院) 塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学大学院) 中村 妃智 (千葉・日本体育大学) 橋本 優弥 (岐阜・岐阜商業高校) 古山 稀絵 (東京・昭和第一学園)

2016 UCIトラック世界選手権大会 日本代表選手団

大会名	2016 UCIトラック世界選手権大会
開催日程	2016年3月2日～6日
派遣期間	2016年2月26日～3月8日
開催場所	イギリス・ロンドン
代表選手団	
監督	坂本 勉 (短距離ヘッドコーチ)
コーチ	飯島 誠 (中距離ヘッドコーチ) 小田島梨絵 (アシスタントナショナルコーチ)
メカニック	森 昭雄 (強化支援スタッフ) 斎藤 健吾 (強化支援スタッフ)
マッサー	柳 浩史 (強化支援スタッフ) 中山 真臣 (強化支援スタッフ)
スタッフ	村田 正洋 (情報科学スタッフ)
ドクター	内田 彰子 (強化医学部会員)
選手	中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本) 渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島) 雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木) 脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井) 窪木 一茂 (和歌山・NIPPO VINI FANTINI) 橋本 英也 (岐阜・鹿屋体育大学) 石井 貴子 (JPCA・JPCU 千葉) 前田佳代乃 (京都) 上野みなみ (青森・鹿屋体育大学大学院) 塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学大学院) 中村 妃智 (千葉・日本体育大学) 梶原 悠未 (埼玉・筑波大学附属坂戸高校)

NEWS

■ 第71回国民体育大会(岩手県)種目について

平成28年度実施の標記大会より女子種目が新たに加わります。詳しくは以下の通り。

人数：選手2名・補欠1名

種目：ケイリン、スクラッチ、チーム・スプリント

各チーム1名までの女子競技者については、登録者規程第3条(競技者)(2)の限りではないこととする。(平成28年4月1日発効)
上記については本大会へ向けた準備のための先行公表です。確定情報については後日公開される実施要項をご確認ください。
また、男子の4km速度競走はスクラッチに変更。男女の団体種目は予選上位2チームが決勝進出し、3-4位決定戦は行ないません。

■ 競技者登録番号の記号とカテゴリーについて

競技者登録番号内に2桁の英字がありその一部が年齢によって自動的に変更になる場合がありますが、これは年齢範囲を表すものでカテゴリーではありません。参加カテゴリーについては各大会主催者へお問い合わせください。

例) 77MM1234567

↑

従来30歳以上は自動的にMとなっておりましたがEとMは選択制になりました。これも上記同様、大会参加カテゴリーとは関連がありません。30歳以上でこの記号の変更を希望する場合は各加盟団体へお問い合わせください。

■ 加盟団体事務局の住所変更について

◎秋田県自転車競技連盟

〒019-1404 秋田県仙北郡美郷町六郷字古館南6 サテライト六郷 六郷開発(株)内
TEL:0187-84-4465 FAX:0187-84-4467 satellite-r@earth.ocn.ne.jp

◎愛知県自転車競技連盟

〒466-0034 愛知県名古屋市昭和区明月町1-1 石原様方
TEL:052-881-5024 FAX:052-881-5211 office@aichi-cf.jpn.org

◎広島県自転車競技連盟

〒732-0006 広島県広島市東区戸坂桜西町4-29 戸高様方
TEL:082-562-2565 FAX:082-562-2565 hirosshima.cf.jimu@gmail.com

◎長崎県自転車競技連盟

〒857-0852 長崎県佐世保市干尽町2-5
TEL:0956-20-8181 FAX:0956-32-5076 cy.sasebo-jimu@totor.co.jp

■ 評議員の変更について

戸邊 裕将(茨城県)・石原 正和(愛知県)・高田 健一(徳島県)

男子エリート・ロードレースランキング

2016/2/29

順位	名前	所属	合計	T0J	T0J	T0J	熊野	熊野	熊野	全日本	全日本	T北海道	T北海道	全日本	世界選	Japan	ケルト*	アジ7選	アジ7選
				総合	3 St	7 St	総合	1 St	3 St	TT	ロード	総合	3 St	実業団	ロード	Cup	沖縄	TT	ロード
				2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2016	2015
				5/17-24	5/20	5/24	5/28-31	5/29	5/31	6/21	6/28	9/13	9/13	9/27	9/27	10/18	11/8	1/21	1/24
1	新城 幸也	JPCA	120p												10	40			70
2	畑中 勇介	東京	48p													8			
3	別府 史之	JPCA	40p							30				10					40
3	窪木 一茂	和歌山	40p							40									
5	入部 正太郎	奈良	33p									3					30		
6	増田 成幸	栃木	28p						5	16								7	
7	初山 翔	神奈川	19p				6			1						4	8		
8	鈴木 龍	栃木	15p						2	10							3		
8	鈴木 真理	栃木	15p							8				7					
10	吉田 隼人	奈良	12p							12									
10	中根 英登	愛知	12p				12												
10	西園 良太	鹿児島	12p							2		10							
13	井上 和郎	福井	10p														10		
14	中村 龍太郎	千葉	8p							8									
14	鈴木 謙	栃木	8p				8												
16	内間 康平	沖縄	6p									6							
16	黒枝 士揮	大分	6p								6								
16	黒枝 咲哉	大分	6p				4						2						
19	綾部 勇成	JPCA	5p						5										
20	野中 竜馬	広島	4p											4					
21	中島 康晴	福井	3p							3									
22	山本 隼	山梨	2p							2									
22	大久保 陣	鹿児島	2p				2												
22	土井 雪広	山形	2p															2	

平成27年度第一級公認審判員講習会（トラック&ロード）

平成24年度より定められた「ライセンス種類別講習カリキュラム最低時間配分基準」並びに「第1級公認審判員検定評価項目・基準」に基づき、筆記検定が平成27年7月に東京で3日間にわたり実施。

平成27年8月に長野県で開催された第71回全日本大学対抗選手権自転車競技大会において実技検定を実施いたしました。検定の結果、右記の2名が合格致しました。 芦田 千里（京都）・荒井 純一（学連）

（講評）「コミセールは2級以上の公認審判員があたる。このうちよりコミセール・パネルを構成する」、「チーフコミセールは原則として1級公認審判員があたる」（JCF規則第54条）となっており、1級公認審判講習受講者は、合格後は全国大会のチーフコミセールを務めるにたる力量が期待されており、2級公認審判員時代に様々なポジション・チーフや地域大会のチーフコミセールを努めて十分な経験を積まれていることが期待されています。経験不足は本人の努力のみでは解決できない側面もあり、各加盟団体におかれましては地域別大会等の実施時に受講予定者を積極的に責任あるポジションに起用し、実務における経験度の向上に配慮いただくようお願いいたします。

2020年に東京でのオリンピック、パラリンピックの開催が決まり、今後日本国内において活発に国際大会を誘致することが求められています。我が国の自転車競技発展のためには優秀な審判員により運営される安全で円滑な大会開催が不可欠であり、審判員各位が更に技量の向上に努め、経験を積まれてより上級資格へ挑戦されることを期待しております。

（競技運営委員会）

2016年アジア選手権大会 日本代表選手団

大会名	第36回アジア自転車競技選手権大会 第23回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会 第5回アジア・パラサイクリング自転車競技選手権大会
開催日程	2016年1月19日～30日 <ロード> 1月19日～24日<トラック> 1月26日～30日
派遣期間	2016年1月17日～30日 <ロード> 1月17日～24日<トラック> 1月23日～30日
開催場所	<ロード> 東京都大島町 <トラック> 静岡県伊豆市 伊豆ヘロドローム
代表選手団	
監督	坂本 勉（短距離ヘッドコーチ）※ T
コーチ	飯島 誠（中距離ヘッドコーチ）※ T 浅田 顕（ロードヘッドコーチ）※ R 柿木 孝之（ロードコーチ）※ R 宮本 文晴（強化支援コーチ）※ T 折本 裕樹（ジュニア強化育成部会長）※ T 山本 宏恒（ジュニア強化育成部会長）※ T 大野 直志（ジュニア強化育成部会長）※ R 相原 好宏（ジュニア強化育成部会支援スタッフ）※ T
メカニック	森 昭雄（強化支援スタッフ）※ T 斎藤 健吾（強化支援スタッフ）※ T 中村 仁（強化支援スタッフ）※ R 西 勉（強化支援スタッフ）※ R 高橋 優平（強化支援スタッフ）※ R
マッサー	柳 浩史（強化支援スタッフ）※ T 中山 真臣（強化支援スタッフ）※ T 辻 喜代志（強化支援スタッフ）※ T 井上 良輝（強化支援スタッフ）※ R 穴田 悠吾（強化支援スタッフ）※ R
スタッフ	村田 正洋（情報・科学スタッフ）※ T
ドクター	内田 彰子（つくば体力医科学研究所）※ T
選手	
<ロード>	
エリート	別府 史之（JPCA・トレック・セガフレード）※ RR 新城 幸也（JPCA・ランプレ・メリダ）※ RR 畑中 勇介（東京・チーム右京）※ RR 内間 康平（沖繩・ブリヂストンアンカーサイクリングチーム）※ RR 増田 成幸（栃木・宇都宮ブリッツェン）※ TTのみ 萩原麻由子（群馬・Wiggle HIGH5 pro Cycling）※ TT・RR 金子 広美（三重・イナメ・信濃山形）※ RR 與那嶺恵理（茨城・FORZA・YONEX）※ RR 坂口 聖香（兵庫・パナソニックレディーズ）※ RR
U23	徳田 優（京都・鹿屋体育大学）※ RR 小橋 勇利（愛媛・シマノレーシングチーム）※ RR 秋田 拓磨（福井・朝日大学/シマノレーシングチーム）※ RR 雨澤 毅明（栃木・宇都宮ブリッツェン）※ RR 山本 大喜（奈良・鹿屋体育大学）※ TT
ジュニア	渡邊 歩（福島・学法石川高校）※ TT・RR 花田 聖誠（東京・昭和第一学園高校）※ RR 小野 寛斗（神奈川・横浜高校）※ RR 吉岡 衛（奈良・奈良北高校）※ RR 細谷 夢菜（埼玉・浦和工業高校）※ TT・RR 下山美寿々（大阪・大阪教育附属高校）※ RR ※ TT: 個人タイムトライアル、RR: 個人ロードレース

<トラック>

エリート	中川誠一郎（JPCA・JPCU 熊本） 渡邊 一成（JPCA・JPCU 福島） 早坂 秀悟（JPCA・JPCU 宮城） 河端 朋之（JPCA・JPCU 岡山） 脇本 雄太（JPCA・JPCU 福井） 雨谷 一樹（JPCA・JPCU 栃木） 窪木 一茂（和歌山・NIPPO VINI FANTINI） 一丸 尚伍（大分・ブリヂストンアンカーサイクリングチーム） 倉林 巧和（群馬・日本体育大学大学院） 近谷 涼（富山・三和シャッター/マトリックスパワータグ） 橋本 英也（岐阜・鹿屋体育大学） 原田 裕成（岡山・鹿屋体育大学） 小林 泰正（群馬・日本体育大学） 新村 穰（神奈川・法政大学） 前田佳代乃（京都） 石井 貴子（JPCA・JPCU 千葉） 梶田 舞（JPCA・JPCU 栃木） 塚越さくら（鹿児島・鹿屋体育大学大学院） 上野みなみ（青森・鹿屋体育大学大学院） 中村 妃智（千葉・日本体育大学） 鈴木 奈央（静岡・日本競輪学校） 梶原 悠未（埼玉・筑波大学付属坂戸高校）
ジュニア	沢田桂太郎（宮城・東北高校） 今村 駿介（福岡・祐誠高校） 田川 翔琉（熊本・ルーテル学院高校） 曾我部厚誠（大阪・城東工科高校） 脇本 勇希（福井・科学技術高校） 中島 詩音（山梨・甲府工業高校） 小原丈一郎（青森・青森山田高校） 伊藤 歩登（兵庫・神戸弘陵学園高校） 東矢 圭吾（熊本・千原台高校） 治田 知也（新潟・吉田高校） 細谷 夢菜（埼玉・浦和工業高校） 内村 舞織（鹿児島・南大隅高校） 松本 詩乃（東京・昭和第一学園高校） 松井 優佳（鹿児島・南大隅高校） 中村 愛花（福井・科学技術高校） 小林 彩乃（群馬・前橋工業高校）

<パラサイクリング>

監督	権丈 泰巳（JPCF 強化委員長）※ T・R
メカニック	鬼原 積（JPCF 強化支援スタッフ）※ T・R
トレーナー	菊地 孝明（JPCF 強化支援スタッフ）※ T
スタッフ	柿木 克之（JPCF 強化支援スタッフ）※ T・R 樽木 武弘（JPCF 強化支援スタッフ）※ T・R 田中 一成（JPCF 強化支援スタッフ）※ T・R
選手	藤田 征樹（茨城・日立建機）※ T・R 石井 雅史（東京・藤沢市みらい創造財団）※ T・R 相園健太郎（福岡・福岡大学）※ T 小川 睦彦（東京・杉並区役所）※ T・R 川本 翔太（広島・JPCF）※ T 阿部 学宏（静岡・鈴与）※ T 小林 泰理（神奈川・厚木商業高等学校）※ T 大城 竜之（静岡・東京都立文京盲学校）※ T 照井 拓成（岩手・日本大学）パイロット※ T 藤井 美穂（東京・楽天ソシオビジネス）※ T 鹿沼由理恵（東京・楽天ソシオビジネス）※ T・R 田中 まい（千葉・JPCU 千葉）パイロット※ T・R



まかせて安心

いざというときしっかりサポート

スポーツ安全保険



4名以上の団体・グループで
ご加入ください。

傷害保険

賠償責任保険

突然死葬祭費用保険



対象となる事故

団体活動中の事故 / 往復中の事故

保険期間

平成28年4月1日午前0時から平成29年3月31日午後12時まで
(申込受付は平成28年3月から)

掛金

掛金(1人年額 800円~11,000円)は、活動内容・年齢によって
ご選択いただく加入区分ごとに異なります。

例 高校生以上64歳以下の方のスポーツ活動を補償するC区分は1,850円

補償内容

補償内容は、加入区分によって異なります。詳しくは、ホームページなどをご覧ください。

スポーツ安全協会

検索

インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。



公益財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル8階 TEL03-5510-0022

保険の詳しい内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。

<http://www.sportsanzen.org>

●資料請求は、インターネットより
受付けております。



携帯電話から
資料請求ができます。

この広告はスポーツ安全保険(スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険(スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険)、賠償責任保険(スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)付帯普通傷害保険賠償責任担保条項))の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社(担当課) 公務第2部 文教公務室
TEL 03-3515-4346(平日9:00~17:00)

〈共同引受保険会社(平成28年4月)〉

あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン日本興亜 大同火災 東京海上日動
日新火災 富士火災 三井住友海上

日本自転車競技連盟ランキング制度

褒賞金支給要項

2 支給対象大会		ランキング・ポイント数をUCIに準じて差替え	
①オリンピック競技大会 ②世界選手権大会 ③ジュニア世界選手権大会 ④ワールドカップ大会 ⑤アジア競技大会		支給対象大会 ①オリンピック競技大会 ②パラリンピック競技大会 ③世界選手権大会 ④パラサイクリング世界選手権大会 ⑤ジュニア世界選手権大会 ⑥ワールドカップ大会 ⑦パラサイクリングワールドカップ大会 ⑧アジア競技大会 ⑨アジアパラ競技大会	
3 褒賞金の取得		褒賞金の取得	
本連盟、登録者規程 第2章 第6条～第9条により支給する。		本連盟、登録者規程 第4条により支給する。	
順位	表彰金	表彰金	表彰金
1位	50万円	50万円	50万円
2位	40万円	40万円	40万円
3位	30万円	30万円	30万円
4位	20万円	20万円	20万円
5位	10万円	10万円	10万円
6位	5万円	5万円	5万円
7位	3万円	3万円	3万円
8位	2万円	2万円	2万円
9位	1万円	1万円	1万円
10位	5万円	5万円	5万円
11位	3万円	3万円	3万円
12位	2万円	2万円	2万円
13位	1万円	1万円	1万円
14位	5万円	5万円	5万円
15位	3万円	3万円	3万円
16位	2万円	2万円	2万円
17位	1万円	1万円	1万円
18位	5万円	5万円	5万円
19位	3万円	3万円	3万円
20位	2万円	2万円	2万円
21位	1万円	1万円	1万円
22位	5万円	5万円	5万円
23位	3万円	3万円	3万円
24位	2万円	2万円	2万円
25位	1万円	1万円	1万円
26位	5万円	5万円	5万円
27位	3万円	3万円	3万円
28位	2万円	2万円	2万円
29位	1万円	1万円	1万円
30位	5万円	5万円	5万円
31位	3万円	3万円	3万円
32位	2万円	2万円	2万円
33位	1万円	1万円	1万円
34位	5万円	5万円	5万円
35位	3万円	3万円	3万円
36位	2万円	2万円	2万円
37位	1万円	1万円	1万円
38位	5万円	5万円	5万円
39位	3万円	3万円	3万円
40位	2万円	2万円	2万円
41位	1万円	1万円	1万円
42位	5万円	5万円	5万円
43位	3万円	3万円	3万円
44位	2万円	2万円	2万円
45位	1万円	1万円	1万円
46位	5万円	5万円	5万円
47位	3万円	3万円	3万円
48位	2万円	2万円	2万円
49位	1万円	1万円	1万円
50位	5万円	5万円	5万円

チーム登録規定

第2条 (チームの構成とチーム員の条件)
 3. 監督およびコーチは、下記の登録証を所持する者でなければならぬ。
 (1) (公財)日本体育協会・公認スポーツ指導者制度で認定された登録指導者(自転車競技)A・B・C級コーチ・A・B・C級スポーツ指導者の登録証。

(公財)日本自転車競技連盟 競技規則集

2016年改訂事項一覧表 概要説明



公益財団法人 日本自転車競技連盟

2016年版
 JCF競技規則集

(公財)日本自転車競技連盟 2016年版の競技規則集が発行されました。
 ご購入希望のお問合せは、各加盟団体へお問合せください。

← ① 取り外して、切る ※ このページから内側部分を取り外して、①折り目部分で切り取り、
 ↓ ②山折り ②点線部分を山折りにして下さい。携帯版(A5,16p)になります。

付表2-1：ロード・レースの区分(クラス)

Table with columns for event name, date, category, and participating teams. It lists various cycling events like 'ロードレース' and 'トラックレース' with their respective UCI categories and participating teams.

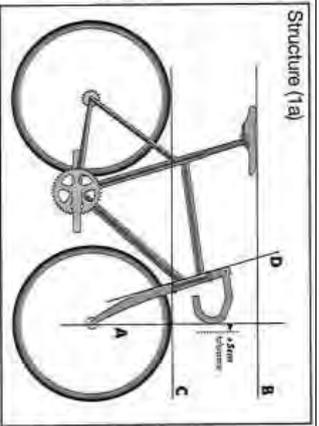
程は、新UCIワールドツアー競技日程に統合される。

程は、新UCIワールドツアー競技日程に統合される。

Table with columns for item number, title, and detailed technical specifications. It covers various bicycle components and safety standards, such as '前フォークのエンブレム' and '自転車用ヘルメット'.

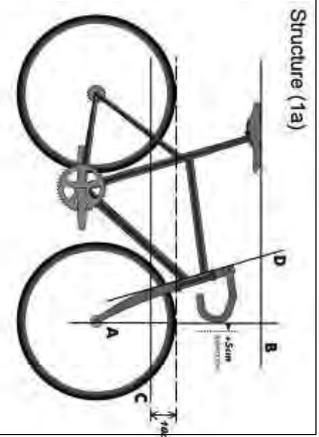
い、2.5cmで示される水平なテンプレートに収まる範囲で傾斜してよ

い、2.5cmで示される水平なテンプレートに収まる範囲で傾斜してよ

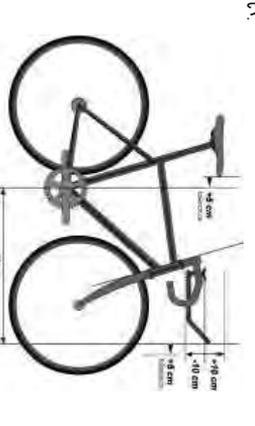


第16条3(2)(d)②を適用する以外の競技においては、伝統的形狀のハンドルバーのみが使用できる(構造(1)図を見よ)。ハンドルバーは以下に明示する範囲になければならぬ。上限、サドル座面(B)を通る水平面、下限、前後輪(これらは同径である)の上端を通る水平線(C)。後方は操舵軸(D)そして前方は50mの許容差を以て前車軸を通る垂直線(構造(1)図を見よ)。この(A)については、トラッカの短距離種目(トラインク200m, トラインク200m, スクリント, チーム・スクリント, ケイブ500m および 1km タイムトライアル)に出場する競技者の自転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より100cm以上前に出てはならない。

②ハンドルバーの下部(A)は前後輪の上端を通る水平線は、身体形態上の理由で必要な場合には前方に拡張できる。これらの理由により、規定より小さい自転車が必要であると考える競技者は、バイク・メンテナンス・ルール・ブックに申告し毎年報告を要する。

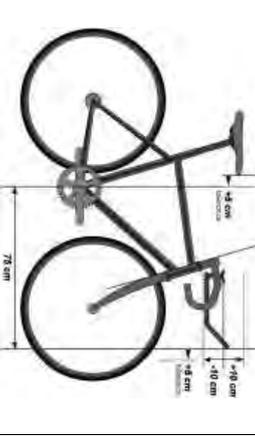


第16条3(2)(d)②を適用する以外の競技においては、伝統的形狀のハンドルバーのみが使用できる(構造(1)図を見よ)。ハンドルバーは以下に明示する範囲になければならぬ。上限、サドル座面(B)を通る水平面、下限、前後輪(これらは同径である)の上端から10cm 下を通る水平線(C)。後方は操舵軸(D)そして前方は50mの許容差を以て前車軸を通る垂直線(構造(1)図を見よ)。この(A)については、トラッカの短距離種目(トラインク200m, トラインク200m, スクリント, チーム・スクリント, ケイブ500m, 500m および 1km タイムトライアル)に出場する競技者の自転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より100cm以上前に出てはならない。



ポトムクラクアット軸を通る垂直線とハンドルバーの先端との距離は75cmを超えてはならず、その他の第16条3(2)(d)①(B,C,D)に定める制限は変更されない。肘または前腕の保持部は許される(図1構造(B)を見よ)。

ロード・タイムトライアルにおいては、ハンドルバー延長部に操作部またはレバーを75cmを超えて握りの位置をもたせざる限りにおいて、固定することができる。競技において、この前部により規定されるトラッカおよびロード競技においては、この



ポトムクラクアット軸を通る垂直線とハンドルバー・エクステンションの先端との距離は75cmを超えてはならず、その他の第16条3(2)(d)①(B,C,D)に定める制限は変更されない。肘または前腕の保持部は許される(図1構造(B)を見よ)。

ロード・タイムトライアルにおいては、ハンドルバー・エクステンションに操作部またはレバーは、75cmの制限を超えてはならない。前部により規定されるトラッカおよびロード競技においては、この75cmの距離は身体形態上の理由により80cmまで延長できる。身体形態上の理由で、競技者の身体部分の長さに起因する

第22章 チームおよびチーム役員(スタツク)

第98条B(チーム役員(スタツク))
本規則におけるチームとは、別に定める「チーム登録規程」により定義したチームのことをいう。本連盟は「ライセンス」を発行する一本連盟のライセンス所持者(公財)日本体育協会自転車競技公認各級コーチ、同公認自転車競技各級指導員はこのライセンスの受給資格を持つとみなされる。

第24章 記録の公認

第101条(記録公認の条件)
5. フォトドープ検査実施していないこと
第103条
(公認する日本記録の種類)
次の種目・距離において日本記録を公認する。今後、UCI が認めれば種目を追加する。 =

2. 団体種目	男子				女子			
	チーム・バイ	エリート	ジュニア	エリート	ジュニア	チーム・バイ	エリート	ジュニア
チーム・バイ	4km	○	○	○	○	○	○	○
ジュニア	250 m×3	○	○	○	○	○	○	○
チーム・スクリ	500×1/2m×3	○	○	○	○	○	○	○
ジュニア	333.33 m×3	○	○	○	○	○	○	○
チーム・スクリ	400 m×3	○	○	○	○	○	○	○
ジュニア	500 m×3	○	○	○	○	○	○	○
チーム・スクリ	250 m×2	○	○	○	○	○	○	○
ジュニア	500×1/2m×2	○	○	○	○	○	○	○
チーム・スクリ	333.33 m×2	○	○	○	○	○	○	○
ジュニア	400 m×2	○	○	○	○	○	○	○
チーム・スクリ	500 m×2	○	○	○	○	○	○	○

第104条 (日本記録の公認)
前各条の条件を満たし、公認日本記録は1/100秒以上の記録が更新された場合にはこれをすべて日本記録として公認する。アワーレコード、最優秀アワー・パフォーマンスについてはUCI規則による。

(日本記録の公認)
前各条の条件を満たし、公認日本記録は1/100秒以上の記録が更新された場合にはこれをすべて日本記録として公認する。アワーレコード、最優秀アワー・パフォーマンスについてはUCI規則による。

ドープ検査を実施しない記録更新大会、国外における競技大会において記録が更新された場合、速やかに競技大会検査を受けなければならない。その結果が「フォートドープ検査違反または検査が実施されない場合は日本記録として公認されない」。

種目	最大		UCIワールドツアー	UCIワールドツアー
	新 規 競 技 大会	技 大会		
UCIワールドツアー	各大会の最大期間は2004年と同じでなければならない。オーストラリア、フランス、イタリアの2の新規大会の期間は、理事会による例外が認められない限り、5日間に限られる。	各大会の最大期間は2004年と同じでなければならない。オーストラリア、フランス、イタリアの2の新規大会の期間は、理事会による例外が認められない限り、6日間に限られる。	UCIワールドツアー	期間は「プロフェッショナル自転車競技評議会」が決定する
UCIワールドツアー	各大会の最大期間は2004年と同じでなければならない。オーストラリア、フランス、イタリアの2の新規大会の期間は、理事会による例外が認められない限り、5日間に限られる。	各大会の最大期間は2004年と同じでなければならない。オーストラリア、フランス、イタリアの2の新規大会の期間は、理事会による例外が認められない限り、6日間に限られる。	UCIワールドツアー	期間は「プロフェッショナル自転車競技評議会」が決定する
UCIワールドツアー	各大会の最大期間は2004年と同じでなければならない。オーストラリア、フランス、イタリアの2の新規大会の期間は、理事会による例外が認められない限り、5日間に限られる。	各大会の最大期間は2004年と同じでなければならない。オーストラリア、フランス、イタリアの2の新規大会の期間は、理事会による例外が認められない限り、6日間に限られる。	UCIワールドツアー	期間は「プロフェッショナル自転車競技評議会」が決定する

アンダー-23 (ウズベク)	150	180	40	50
ジュニア7	100	120	30	40
女子	100	130	40	50
ジュニア7	80	80	15	20

アンダー-23 (ウズベク)	150	180	40	50
ジュニア7	100	120	30	40
女子	100	130	40	50
ジュニア7	80	80	15	20

第29条 (シロクロス種目)
競技はできる限り下記に近い時間で行う:
① 男子ジュニア 40分
② 男子アンダー-23 50分
③ 男子エリート 60分 (アンダー-23とエリートを同時に行う場合を含む)
④ 女子 40分 (50分を超えてはならない)

競技はできる限り下記に近い時間で行う:
① 男子ジュニア 40分
② 男子アンダー-23 50分
③ 男子エリート 60分 (アンダー-23とエリートを同時に行う場合を含む)
④ 女子 40分 (50分を超えてはならない)

第11章 競技大会の開催および準備

第41条 (競技大会 競技日程)
競技日程は、毎年、歴年または競技シーズンに合わせて作成する。
加盟団体および国内の競技大会主催者は、次年度に開催する競技大会について11月30日までに本連盟に申請する。ただし、シロクロスについては当該年度の5月31日までに申請する。
本連盟は、国内競技日程を12月までに作成する。ただし、原則としてロードレースの国内選手権大会の日として6月の最終週中、シロクロスの国内選手権大会の日としてUCI理事會が設定した日、マウンテンバイクの国内選手権大会の日として第29週末、BMX国内選手権大会の日として7月の第1週末を留保する。トリアス/トリathlon国内選手権大会は6月の最終週末に行われなければならない。しかしながら、マウンテンバイク国内選手権大会とともに開催できるなら、第29週末となる。

第12章 大会要項と参加手続き
第52条 (大会要項(参加手続き))
チームまたは競技者は、所属国連盟の承認を得た後、大陸競技日程/世界競技日程の競技大会に参加できるかどうかは、その国の連盟が決定する。

第13章 総務および競技担当役員
第57条 (コミセール/パネル)
③ 次の場合、即刻レースから失格させることができる。
その競技者は明らかにレースを走行することができない場合。
・ 相当な距離の遅れがひどく、レースについていけないとき。
・ 他の競技者に危険を与えるおそれがあるとき。
以上の決定は直ちに署名した報告書に記述する。
懲戒に関するUCI規則第12.1.012を模範のない限り、コミセール/パネルまたは適切な場合、一人のコミセールによる事実の観察、競技における状況の評価、競技規則の適用またはその他の決定に対するいかなる異議申立でも認められない。

① 判定員は、自ら選択した他のコミセールまたはその他の人員の助力を得ることができる。
② 判定員は、競技中の競技者の行為とその競技規則の遵守を専門に監視する。この問題において、判定員は単独で速やかにペナルティを科し、または規則の下に必要な決定を行う。判定員は、自ら選択した他のコミセールまたはその他の人員の助力を得ることができる。
③ 判定員は、トラックの外側の、トラック全体を見渡せる静かに隔離された場所に位置しなければならぬ。判定員はチーム/コミセールと直接連絡できる手段を与えられなければならない。レース中の出来事をスロー再生することができる。チーム/コミセールも利用できることが望ましい。このシステムは、チーム/コミセールが非公開で同じ映像を見ることを可能にするために、フライングライクの近くに置かれテレビディスプレイと接続することが望ましい。

① 判定員は、自ら選択した他のコミセールまたはその他の人員の助力を得ることができる。
② 判定員は、競技中の競技者の行為とその競技規則の遵守を専門に監視する。この問題において、判定員は単独で速やかにペナルティを科し、または規則の下に必要な決定を行う。判定員は、自ら選択した他のコミセールまたはその他の人員の助力を得ることができる。
③ 判定員は、トラックの外側の、トラック全体を見渡せる静かに隔離された場所に位置しなければならぬ。判定員はチーム/コミセールと直接連絡できる手段を与えられなければならない。レース中の出来事をスロー再生することができる。チーム/コミセールも利用できることが望ましい。このシステムは、チーム/コミセールが非公開で同じ映像を見ることを可能にするために、フライングライクの近くに置かれテレビディスプレイと接続することが望ましい。

第21章 パラサイクリング

第97条 (パラサイクリング)
7. UCI登録チームのメンバーであるプロフェッショナル競技者は、UCIエリートとして参加することはできない。
UCIエリートチームまたはUCIコンチネンタル/プロフェッショナルチームのメンバーであった競技者は、タンデム/パラロケットに参加するまでに、契約を満了してから12ヶ月の待機期間を尊重しなければならない。この待機期間は、UCI規則第11.1.041に記述される他のUCIチームのメンバーであった競技者については延長される。
18歳以上の男子および女子の競技者は、下記競技大会(すべての種目を含み)のうちひとつに、所属する国内連盟から選抜されたことがないという条件の下に、タンデム/パラロケットで競技できる。
- UCI世界選手権大会(マーズを除く)、オリンピック競技大会 - パラサイクリング競技大会に先立ち少なくとも12ヶ月以内
- UCIワールドカップ、地域大会または大陸選手権大会 - パラサイクリング競技大会(ジュニアを除く)の周年内
個人または複数障害者の各競技者は、パラサイクリング競技大会に最多1名のメンバーを認められる。競技者およびロケットは競技上の同国籍者でなければならない。

8. ロードレースコースは他の交通から完全に遮断されていないなければならない。
UCI競技のロードレースサーキットは、7kmから15kmの間でなければならない。7 km未満のサーキットであっても、ユニークな特徴(急な坂、急な下り、急な上り)により、UCIの重量権により許可される。
いかなるサーキットも平均8%の平均勾配を持たなければならない。最も急な区間でも最大15%を超えてはならない。登坂の長さ三輪車、ハンドサイクルおよびユニークサーキットの競技者は、より短く、技術的难度の低いサーキットを使用できる。
16. チーム監督は、氏名とスポーツ/クラスを提示し、チーム/エリートに参加する競技者の順番も含んでチームを構成しなければならない。順番はH区分の競技者が参加する競技終了後1時間以内にチーム/コミセールに提出しなければならない。この順番はその後変更することができる。

17. 1番目の競技者は、通常のロードレースのように同時にスタートする。チームの競技者が彼の周囲を完了し、チームメイトの前導を過ぎたなら、次競技者が彼の周囲を開始する。各チームは、リレー/エリートにおいて次チーム競技者の援助をするスタッフ2名を許可される。

18. ロードレースコースは他の交通から完全に遮断されていないなければならない。
UCI競技のロードレースサーキットは、7kmから15kmの間でなければならない。7 km未満のサーキットであっても、ユニークな特徴(急な坂、急な下り、急な上り)により、UCIの重量権により許可される。
いかなるサーキットも平均8%の平均勾配を持たなければならない。最も急な区間でも最大15%を超えてはならない。登坂の長さ三輪車、ハンドサイクルおよびユニークサーキットの競技者は、より短く、技術的难度の低いサーキットを使用できる。
16. チーム監督は、氏名とスポーツ/クラスを提示し、チーム/エリートに参加する競技者の順番も含んでチームを構成しなければならない。順番はH区分の競技者が参加する競技終了後1時間以内にチーム/コミセールに提出しなければならない。この順番はその後変更することができる。
17. 1番目の競技者は、通常のロードレースのように同時にスタートする。チームの競技者が彼の周囲を完了し、チームメイトの前導を過ぎたなら、次競技者が彼の周囲を開始する。各チームは、リレー/エリートにおいて次チーム競技者の援助をするスタッフ2名を許可される。

Track Races (エリート短距離)



男子エリートのチームスプリント
photo: Hideaki TAKAGI

大会1日目

チームスプリント予選、女子は1走石井、2走前田、男子は1走雨谷、2走渡邊、3走中川のメンバーで臨んだ。特に今回、男子チームスプリントでは宿敵韓国に勝利して、オリンピック枠獲得に望みをつなげる大事な大会となる。予選は男女とも1走のかがりが悪く、3位通過で3-4位決定戦となる。決定戦では男子1走雨谷が予選よりタイムを上げるも2走渡邊が失速し、予選よりタイムが伸びなかったが先着し3位が確定した。本来のタイムが出ず、特に男子チームは優勝を目指してのこの結果は、非常に残念であった。



女子エリートのチームスプリント
photo: Hideaki TAKAGI

大会2日目

男子ケイリン。渡邊と脇本が出場。1回戦・準決勝は両選手とも本来の力を発揮し、危なげなく決勝戦へ進む。決勝戦では、韓国、中国、脇本、渡邊、マレーシア2選手の並びで周回を重ねる。ペーサー退避後、脇本が仕掛けたが、中国の選手に合わされて前に上がれない。渡邊は自力で仕掛けたが、マレーシアの選手のスピードが勝り外を踏まされてしまい、苦しい展開となった。常に先頭にいた韓国選手が、そのまま堂々逃げきりで優勝。この種目

で世界でも上位で戦っている日本の両選手は、マレーシア選手を意識し過ぎて仕掛けが遅くなり、自国開催で必勝を期したがメダルを逃すこととなった。渡邊5位、脇本6位となった。



ケイリンの渡邊
photo: Hideaki TAKAGI

500mTT、梶田が出場。怪我から完全復調とはいえ、スタートからスピードに乗りきれず、本来得意である後半の伸びが見られず6位となる。

大会3日目

女子スプリント、前田と石井が出場。予選は、前田5位、石井6位で通過。1/8決勝では両者の対戦となり、経験に勝る前田が逃げ切り1/4決勝へ進む。石井は敗者復活戦へ。敗者復活戦、石井はイラン、チャイニーズタイペイと対戦となり、タイミングよく先行し1着通過で1/4決勝へ進む。1/4決勝、石井はホンコン・チャイナの選手と対戦。タイミングを見計らって先行するが追い込まれてしまい敗れる。前田の相手は世界で活躍する中国の選手との対戦であったが、力の違いを見せつけられ敗れ、石井とともに5-8位決定戦となる。5-8位決定戦はインド、マレーシアの選手と対戦。前田はスタートから積極的に前に出て、うまく自分の



女子エリートスプリント 5-8 位決定戦
photo: Sonoko TANAKA

ペースに持ち込んで先行するも、2番手にいたマレーシア選手に最終バックから捲られ4着。マレーシア選手に付いていた石井が2着となり、石井の6位と前田の8位が確定する。

1kmTT、早坂が出場。前日までのコンディションはまずまずであったが、緊張のためかスタートを失敗し、加速がうまくいかず、自己ベストタイムに及ばず2位となる。スタートの失敗が悔やまれる。



男子エリート1kmの早坂
photo: Hideaki TAKAGI

大会4日目

男子スプリント、中川、河端、雨谷が出場。予選は中川5位、河端6位、雨谷8位で通過。1/8決勝、5組で河端と雨谷が対戦し、河端が先行で勝利し、雨谷は敗者復活戦へまわる。6組で中川は韓国の選手と対戦し、先行する韓国の選手を追い込めず敗者復活戦へ。敗者復活戦で、中川はイラン、マレーシアの選手と対戦となる。力の違いを見せつけ勝利し、1/4決勝へすすむ。雨谷はカザフスタン、チャイニーズ・タイペイの選手と対戦する。ラスト1周で前をとった雨谷は、3番手にいたカザフスタン選手がかまして来たことに気づくのが遅れて出られてしまい、必死に追うも惜しくも届かず2着、ここで敗退となる。

大会5日目

男子スプリント1/4決勝、中川はマレーシアの選手と対戦。この対戦は両者オリンピックポイントで争ってお

り、今回の勝敗がオリンピックの枠取りに大きく影響する、大事な対戦である。1本目、ラスト1周外からマレーシア選手が一気にかまして先行、中川追走もゴールで詰め寄るが届かず敗れる。2本目、今度は中川がラスト1周半から先行するもゴール手前で捕らえられ、ここで敗退となり5-8位決定戦へ。河端は中国選手と対戦。1本目、2本目ともうまく先行し、レース内容も悪くなく力を発揮したが、中国選手の力が勝っており2本取られ、中川とともに5-8位決定戦へ。5-8位決定戦はカザフスタン、韓国と対戦。スタートから思い切りよく先行する河端を番手から捲った中川が楽々1着で5位となる。河端は8位。



男子スプリント 5-8 位決定戦
photo: Sonoko TANAKA

女子ケイリン、前田と梶田が出場。1回戦、前田と梶田は3着となり敗者復活戦へ。敗者復活戦では、両者とも先行逃げ切りで1着で準決勝へ。準決勝では、梶田5位、前田4位で決勝へあがれず、7-12位決定戦へ。7-12位決定戦では、梶田が残り1周で仕掛けて先行する。その勢いに乗って捲った前田が1着で7位、梶田は2着で8位が確定。

今までアジアでは常に上位を占めていた男子短距離であったが、今回の成績を深く受け止め反省し、課題を突き止め対策を男女共に行って、東京に向けて発進しなければいけない。(坂本 勉)



女子ケイリン 7-12 位決定戦
photo: Hideaki TAKAGI

【競技結果】

第36回アジア自転車競技選手権大会トラックス
(2016/1/26-30 静岡県・伊豆パドーム)
男子エリート

- 1km タイムトライアル
- 1 DANESHVAR K.M. IRI 1:03.770
 - 2 早坂 秀悟 JPCA JPCU 宮城 1:04.017
 - 3 KIM Woogyeon KOR 1:04.096



- スプリント
- 1 IM Chaebin KOR
 - 2 XU Chao CHN
 - 3 AWANG Mohd Azizulhasni MAS



- 5 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 8 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 10 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

- ケイリン
- 1 IM Chaebin KOR
 - 2 XU Chao CHN
 - 3 AWANG Mohd Azizulhasni MAS



- 5 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 6 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井

- チームスプリント
- 1 韓国 Kang/IM/SON 44.635
 - 2 中国 HU/XU/BAO 44.696
 - 3 日本 中川・渡邊・雨谷 44.940



photo: Hideaki TAKAGI

女子エリート

- 500m タイムトライアル
- 1 ZHONG Tianshi CHN 33.498
 - 2 LEE Wai Sze HKG 33.903
 - 3 HSIAO Mei Yu TPE 35.090



- スプリント
- 6 梶田 舞 JPCA JPCU 栃木 36.751
 - 1 LIN Junhong CHN
 - 2 LEE Hyejin KOR
 - 3 LEE Wai Sze HKG



- 6 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉
- 8 前田佳代乃 京都

- ケイリン
- 1 LEE Wai Sze HKG
 - 2 MUSTAPA Fatehah MAS
 - 3 LEE Hyejin KOR



- 7 前田佳代乃 京都
- 8 梶田 舞 JPCA JPCU 栃木

- チームスプリント
- 1 中国 GONG/ZHONG 32.816
 - 2 韓国 LEE/CHO 34.601
 - 3 日本 石井貴子・前田佳代乃 35.340



photo: Hideaki TAKAGI

photo: Sonoko TANAKA (この頁の表彰写真、団体種目以外全て)



男子オムニアムの橋本

Track Races (エリート中距離)

1月26日(1日目)

●女子チームパーシュート予選

塚越、上野、梶原、中村で臨む。自国開催からの緊張でオーバーペースになり終盤失速。4分37秒474の2位で予選を通過し、翌日の1回戦は予選3位の韓国との対戦が決まる。映像とラップタイムを見せながら、翌日は落ち着いて臨むようアドバイスをした。



女子のチームパーシュート



男子のチームパーシュート

●男子チームパーシュート予選

一丸、近谷、原田、窪木で臨む。最初の1kmを1分4秒で入り、その後3kmまでは日本記録を更新するペースで走る。残り1kmから設定ペースがキープできず、4分6秒404の3位で翌日の1回戦に進む。日本記録の更新はできなかったが、選手達の手応えは良かったようなので、翌日に期待する。男女とも予選トップは中国。

●女子ポイントレース(25km)

上野が出場。ポイントを取りながら得意の逃げに持ち込むことができれば、優勝の確率が高くなる。ライバル勢の中では、昨年のアジア選手権3冠HUANG(台湾)の動きに注意が必要だ。スタートから流れに乗ってポイントを重ねたが、一瞬の隙を突かれLEUNG(香港)とHUANGを逃がして

女子ポイントの上野
photo: Hideaki TAKAGI

しまう。冷静に次のチャンスを狙い、2人が集団に追い付く寸前にSOM(マレーシア)、LEE(韓国)と共にメイン集団から抜け出し、そのまま1ラップに成功。ラップした5選手の争いになる。終盤にかけ連続して攻めたが一歩及



男子スクラッチの倉林 photo: Sonoko TANAKA (この頁、中央の1枚以外全て)

ばず、HUANGと2点差、2位マレーシアとは1点差の僅差で3位に終わった。
1月27日(2日目)

●女子チームパーシュート1回戦・決勝

予選と同じメンバーで臨む。スタートから設定したペースで3000mを順調に通過。残り1kmは17秒台に入ってしまったが、4分34秒752の日本記録で対戦相手の韓国に勝ち、1-2位決定戦に進む。続く決定戦では、中国を相手に互角の走りをしたが、終盤にタイムを落としてしまい2位でゴール。今シーズンから新メンバーで臨んできたが、なかなかタイムを伸ばすことができなかつたので、記録更新はチームに取って大きな自信につながった。

●男子チームパーシュート1回戦・決勝

予選と同じメンバーで臨む。対戦相手の韓国のことは意識せず、自分達の走りに集中するよう声をかける。序盤を設定より早いペースで折り返し、終盤まで崩れることなく4分3秒819の日本記録を更新。中国との1-2位決定戦に進む。勝てば世界選出場が決まる大一番、中国はメンバーを変更。最初の1kmは1分3秒台のハイペースで通過。2kmは2分2秒と中国と互角の走りで終盤へ。残り1km、ペース維持がきつくなり4分5秒636の2位でゴール。残念ながら世界選の切符を獲得する事はできなかった。中国が4分3秒510のアジア記録で優勝。

●男子スクラッチ(15km)

倉林が出場。スクラッチという種目は強豪同士の牽制から、思わぬ所で逃げ(勝負)が決まってしまう事があるので注意が必要だ。序盤から良い流れで周回を重ねたが、中盤でGAINEYEV(カザフスタン)と接触し落車してしまう。幸いダメージは無く集団に復帰す

ることができた。10周を切りスプリント勝負となる。残り2周でLAKASEK (マレーシア)の動きに合わせスパート。SANIKWATHI (タイ)が先着したが、内側追い抜きで降格。2着に入った倉林が繰り上がって優勝。倉林はアジア選手権では昨年のポイントレースに続き2勝目となった。

1月28日(3日目)

●男子オムニウム 初日

橋本が出場。オリンピック枠を確保するためにも上位に入る事が重要となる。最初の種目スクラッチは、RAJABLOU (イラン)が単独で1ラップして1位。2位争いはスプリント勝負となり、的確な位置取りからスプリントをした橋本が、IM (韓国)に次いで3位でゴール。2種目目の個人追抜は、スタートを抑え目に入り後半ペースアップ。LEUNG (香港)、HAO (中国)との接戦を制し4分28秒179で3位に入る。1位はZAKHAROV (カザフスタン)。初日最後のエリミネーションは冷静に展開を読み、ラストは力勝負でライバルを圧倒して1位でゴール。総合も1位で初日を折り返す。

●女子3km個人パーシュート

梶原が出場。緊張と連戦の疲労からペースが安定せず、3分47秒309で4位。3-4位決定戦に進む。続いて行われた決定戦は、予選の走りを修正して臨むも、終盤ペースキープが出来ず3分48秒843の4位でゴール。優勝はポイントレースに続いてHUANG。

●男子ポイントレース (40km)

小林が出場。ロード競技2冠のCHEUNG (香港)を中心に、レースが展開されていく事が予想される。小林はスピードがある選手なので、得意のレース展開ができれば十分に勝つチャンスはある。しかし、会場の雰囲気にもまれてしまい本来の走りができず、2ラップダウンでDNFに終わった。ポイントレース1本で調整してきたので、ここでの悔しさをバネに次のチャンスで雪辱をはらしてもらいたい。終盤までもつれた優勝争いは、1点差で香港を破ったMIN (韓国)が制した。

1月29日(4日目)

●女子オムニウム 初日

日本からは塚越が出場。大陸選手権のウエイトは男子オムニウムと同様に高く、女子はマレーシアに先着し、3位以内でゴールする事が重要となる。流れを上手く作って走ったスクラッチ

は、10周を切り集団スプリント勝負になる。牽制状態の集団から残り1周半で塚越がスパート。ゴール前で僅かにLUO (中国)にかわされ2着でゴール。順位、内容、ともに素晴らしいレースだった。2種目目の個人追抜は中国、DIAO

(香港)、KANG (韓国)に次ぐ3分48秒519の4位でゴール。初日最後のエリミネーションは走力以外にも瞬間の判断力が問われ、選手には高い総合力が求められる。スタートから外々を回される厳しい展開で苦戦。4人目で除外されて5位に終わる。1位は韓国に競り勝ったHSIAO (台湾)。塚越は総合トップの中国と10点差の5位で初日を終えた。

●男子オムニウム 2日目

ギヤ倍数を上げて臨んだ橋本。1kmタイムトライアルは、2-3周目で思うようにペースが上がらず1分5秒155の5位に終わる。1位韓国の1分2秒台というタイムは、世界レベルの大会でも上位に入るタイム。続くフライングラップは13秒370の4位でゴール。1kmとフライングラップで連続1位を取った韓国が首位に立つ。10点差の3位で、橋本は最終種目のポイントレースに逆転を掛けて臨む。序盤から持ち前の積極性でチャンスを狙って行く。上位陣が疲労したタイミングで集団から抜け出すと、1ラップに成功。首位でレースをリードする。終盤、2位カザフスタンの猛攻で点数を詰められたが、5点差で逃げ切り優勝。アジアの頂点を得て、貴重なポイントも積み重ねる事が出来た。

●男子4km個人パーシュート

窪木が出場。年末からの連戦が影響し、後半ペースが上がらず4分36秒191の4位で、3-4位決定戦に進む。予選の走りを修正した決定戦は、3kmまで良いペースを刻むも残り1kmが踏ん張れ



女子スクラッチの梶原

ず、4分32秒319の4位に終わる。

優勝はCHEUNG (香港)がロードと合わせ3冠を達成。

●女子スクラッチ (10km)

梶原が出場。ポイントレース、個人追抜で優勝しているHUANGを中心に展開されることが予想された。アタックと牽制を繰り返しながら残り10周を集団で通過。ここまでは、他の選手を利用しながら冷静に流をつくり対応して行く。残り2周、スパートした香港に反応。最終回、香港をかわし追いつがる台湾を振り切って優勝。会心の勝利だった。

1月30日(最終日)

●女子オムニウム 2日目

500mタイムトライアルは、ワールドカップでも上位に入る塚越の得意種目。スタートからスピードに乗り、台湾に次ぐ36秒066で2位に入る。続くフライングラップも台湾が1位。香港との接戦を制した塚越は14秒408で2位。台湾をトップに、2点差で中国、4点差で塚越、6点差で香港と、上位4カ国が僅差で最終種目のポイントレースがスタート。逆転するには上位陣を逃がさず、コンスタントにポイントを重ねる事が重要になってくる。序盤で連続5点を獲得した中国が台湾を逆転。2位争いは台湾、塚越、香港が僅差で続



女子オムニアムの塚越 photo: Hideaki TAKAGI (この頁全て)

く。7回目のポイントで5点を獲得、台湾を逆転し2位に上る。僅差の2位で向かえた最終回、先行で勝負に行ったが、ゴール前台湾にかわされて201点の3位に終わる。優勝は212点で中国。

●男子マディソン (25km)

新村、原田ペアが出場。マディソンは2人で交代しながら20周ごとにあるポイント周回でポイントを獲得し順位を争う種目。1回目のポイントを2位で通過したが、交代ごとにポジションを下げてしまい単独で遅れてしまう。その後も、挽回を試みるが流れに乗れず、我慢の展開が続いた。最終回写真判定までもつれた優勝争いは、1点差で香港に競り勝った韓国が優勝。日本は2ラップダウンの6位に終わる。

男子マディソン



【総括】

自国開催で重圧がかかる中、選手達は与えられた役割を理解し、今持っている力を発揮してくれた。中でも男女の団体追抜の新記録は、年間を通し目標に向かって取り組んだ成果の一つだと思う。ただ世界レベルの大会で結果を残すためには、より一層のスピードとパワーの強化が重要となってくる。引き続きジュニアと連携しながら、2020年に向かい強化を継続していきたい。(飯島 誠)

【競技結果】

第36回アジア自転車競技選手権大会トラックレース (2016/1/26-30 静岡県・伊豆パドーム)

男子エリート

4km 個人パシュート

- 1 CHEUNG King lok HKG 4:32.085
- 2 OMIRZAKOV Dias KAZ 4:37.343
- 3 MIN Kyeongho KOR 4:28.496



- 4 窪木 一茂 和歌山 NIPPO 4:32.319

スクラッチ (15km)

- 1 倉林 巧和 群馬 日体大大学院 20:17
- 2 GAINEYEV Robert KAZ
- 3 PARK keonwoo KOR



ポイントレース (40km)

- 1 MIN Kyeongho KOR 67p
- 2 CHEUNG King lok HKG 65p
- 3 CHEN Chien Liang TPE 64p
- 小林 泰正 群馬 日本体育大 DNF



ムニアム

- 1 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大 233p
- 2 ZAKHAROV Artyom KAZ 227p
- 3 LIU Hao CHN 203p



マディソン (25km)

- 1 韓国 PARK/SHIN 20p
- 2 香港 CHEUNG/LEUNG 19p
- 3 ガザスタン PANASSENKO/GAINEYEV 6p



- 6 日本 原田裕成・新村 穰 (-2)3p

チームパシュート

- 1 中国 LIU/FAN/QIN/SHEN 4:03.510
- 2 日本 窪木・丸・近谷・原田 4:05.637
- 3 韓国 PARK/KIMI/MIN/SHIN 4:07.116



女子エリート

3km 個人パシュート

- 1 HUANG Ting Ying TPE 3:43.726
- 2 YANG Qian Yu HKG 3:52.124
- 3 SON Eunju KOR 3:46.422



- 4 梶原 悠未 埼玉 坂戸高校 3:48.843

スクラッチ (10km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 坂戸高校 14:22
- 2 HUANG Ting Ying TPE
- 3 SOM NET Ju Pha MAS



ポイントレース (25km)

- 1 HUANG Ting Ying TPE 42p
- 2 SOM NET Ju Pha MAS 41p
- 3 上野みなみ 青森 鹿体大大学院 40p



ムニアム

- 1 LUO Xiaoling CHN 212p
- 2 HSIAO Mei Yu TPE 202p
- 3 塚越さくら 鹿児島 鹿体大大学院 201p



チームパシュート

- 1 中国 HUANG/MA/WANG/CHEN 追抜勝
- 2 日本 塚越・上野・中村・梶原 OVT
- 3 韓国 KIM/SON/LEE/KANG 4:38.054



photo: Sonoko TANAKA (この頁、全て)

Track Races

(ジュニア)



男子ポイントレースの今村
photo: Hideaki TAKAGI

2016.01.26

●女子ジュニア ポイントレース

細谷は序盤からポイント争いに積極的に加わり、全ての中間スプリントで加点するが、4着でのスプリントが目立った。一方で金メダルを獲得した香港のLEUNGは、効率よく得点を重ねた。細谷らがスプリント争いを繰り返す中、体力を温存してタイミング良く飛び出し単独でのワンラップに成功。勝敗を決定づけた。細谷は果敢に攻める姿勢と粘り強さが持ち味であるが、勝負と温存のメリハリを見極めることが、今後の課題として残った。

●女子ジュニア チームスプリント

松井・内村の走順で予選は37秒498の2位通過。決勝の相手は予選1位の韓国。韓国の2人は昨年のジュニア世界選で35秒193、6位の実績を持つ強豪である。1位・2位決定戦、バックスタートの日本。1走松井の125mのタイム13秒030に対し、韓国は13秒004の僅差となる。しかし残る125mで松井8秒257、韓国7秒924と差が広がる。次走・内村は1周のラップタイム16秒396で松井の後半のス



女子チームスプリント

ピード8秒台をそのまま維持した。松井のスタートダッシュ力は韓国に匹敵したが、後半からのトップスピードの差が明暗を分けた。

●男子ジュニア チームスプリント

中島・小原・治田の走順で日本新を目標に臨んだ。予選1位の韓国は46秒581、2位の日本は47秒487で、記録更新と金メダルに充分期待が持てた。ダッシュ力に優れた1走・中島のスタートは予選18秒727で全チーム中トップタイム。金メダルを掛けた1位・2位決定戦。中島18秒880・小原14秒196・治田14秒339。フィニッシュは予選タイムを上回ったが、韓国も更にタイムを伸ばしたため、金メダルには手が届かなかった。



男子チームスプリント

2016.01.27

●女子ジュニア 500m タイムトライアル

松井はチームスプリント同様、スタンディングスタートから125mまでの入りは抜群に速い。松井12秒948、韓国KIM12秒800。9名のエントリー中12秒台は優勝したKIMと松井のみである。しかし250mのスプリントタイムは、KIM20秒451に対して松井は

21秒267と、125m以降のトップスピードに差が出てしまった。松井は残り250mを何とか粘ってフィニッシュ、銀メダルを獲得した。対照的に銅メダルの台湾QIUは、スタートからの125mは13秒836で全選手の5位に位置していたが、その後のスピードを維持し好結果につなげた。

●男子ジュニア スクラッチ

小刻みにアタックが繰り返される中、脇本は自分の位置取りに戸惑ってしまった。エスケープした選手を追う集団の前方に常時位置取りをしまい、ローテーションサイクルが早く、疲労が蓄積されていった。予測できない場面で先頭交代が行われ、対応が間に合わずに接触し落車。そのまま復帰することが出来ず棄権となった。

●女子ジュニア チームパーシュート

4分50秒以内をターゲットタイムに設定した。予選と第1ラウンドは内村、細谷、中村、小林での出走。1走の役割としてスムーズに加速させる能力に秀でた内村であるが、負担が大きく中盤以降での体力の消耗が気になる。残る3名がいかにかカバーしながら各々の役割を果たすかが重要な鍵となった。予選4分59秒586、第1ラウンド4分57秒250と着実にタイムを伸ばした。1-2位決定戦では細谷を1走、内村に代えて松井を起用した。ベストタイムではあったが目標タイムには届かなかった。しかし、チームパーシュートは女子にとって経験値が極めて乏しく、限界点まで達していない段階であり、これまでの成長ぶりは目覚ましく大きな可能性を秘めていることが確認できた。



女子チームパーシュート

●男子ジュニア ケイリン

第1ラウンドは2組東矢、3組治田。両名ともに同じ展開で、ペーサー離脱後の残り2周で果敢に先行し、そのまま先着しての1位通過、次の1/2Fに進出した。

1組・治田、2組・東矢の組み合わせ。

photo: Sonoko TANAKA (この見開頁、左上の1枚以外全て)

両組とも韓国が主導権を獲り、治田・東矢がそれに続く形でのゴール。両名とも2着通過でメダルを賭けた決勝へ。

スタート直後の並びは韓国2名を先頭にイラン、カザフスタン、日本の2名。日本勢も連携を組んで備えるが、ペーサー離脱後、スピードも上がり各選手とも競争態勢に入った瞬間、1センターでイランがスリップによる単独落車。並びは韓国2名に続きカザフスタン、東矢、治田となった。韓国2名はそのまの形で逃げ切り、余裕のワンツーフィニッシュ。続いて東矢が猛追しカザフスタンとの銅メダル争いとなるが、僅かに届かず4位に終わった。

●男子ジュニア チームパーシュート

3レースすべてで沢田・今村・曾我部・田川のメンバーで、4分15秒00を目標にしてレースに臨んだ。予選4分23秒020で2位通過。2km過ぎまで順調に滑り出すが隊列が乱れ、大きく分裂してのフィニッシュ。続く第1ラウンド、対戦は予選3位のカザフスタン。予選での隊列の乱れを修正しチームベストタイムの4分16秒557。



男子チームパーシュート

1位-2位決定戦の対戦相手は韓国。韓国の第1ラウンドは4分15秒164。第1ラウンド2kmまでのスプリットタイムでは日本が韓国に優っており、課題は2-3km間のタイムの落ち込みだった。微妙なラップタイムの変化や先頭交代のイージーミス減らすことなど、チーム全体のクオリティを高める事に重点を置き、スタート位置についた。決勝での走りは3.25km通過時点で日本が若干リード。しかし、残りあと2.5周時に隊列が乱れて車間を空けてしまい、このミスが勝敗を分けた。

●男子ジュニア1kmタイムトライアル

沢田は1周目のラップタイム18秒928と素晴らしいスタートを見せた。続く2周目のラップは13秒857で500mのスプリットタイムは32秒



男子TTの沢田

785。好タイムが期待できた。3周目のラップは14秒732で若干失速気味。しかし750mまでのスプリットタイムは47秒517で、十分に1分02秒台が狙えるタイムであった。最終周は16秒044で何とか粘りを見せ、1分03秒561でフィニッシュ。この時点で第1位。会場を大いに沸かせた。

続く最終走者韓国Naが1分03秒535で、沢田のタイムを更新し金メダル。僅か0.26秒のタイム差で沢田は銀メダル。750mまでのスプリットタイムは韓国47秒574で、沢田が優勢であったことで大いに悔やまれる結果となった。沢田の750mスプリットタイムはジュニア世界選でもメダル獲得圏内であり、終盤の失速をいかに減少させるかが今後の課題となった。

●男子ジュニア ポイントレース

今村が世界チャンピオンらしい走りで、他を寄せ付けない圧倒的な実力を発揮し、見事金メダルに輝いた。

今村は初回から5点を獲得すると、5回目のスプリントまでに単独での1ラップを含めて38点を獲得。他選手が点数争いで苦戦する中、今村は冷静に対応。体力を温存し見極める。6回目以降はマレーシアと韓国の5点、3点の争奪戦となったが、今村の得点には及ばず、最終スプリントを待たずに金メダルが確定した。

今村は、集団最後尾の上段から抜け



男子ポイントレースの今村

出すタイミングとスピードが群を抜いており、瞬く間に集団を引き離し、単独での高速巡行を持続できる能力が優れていた。また、レース展開が停滞し、先頭交代のローテーションが不規則に起こる場面では、万が一の落車を回避出来る安全な位置取りの確保も見事であった。

●女子ジュニア2km個人パーシュート

細谷は予選2分33秒315で2位通過。スタートから果敢に攻め1kmを1分15秒377で入ったが、ややオーバーペース気味。後半失速するが何とか粘りきりフィニッシュ。



女子個人パーシュートの細谷

決勝ではスタンディングスピード、2周目のラップタイムを確認し、前半の1kmを若干抑えさせ、安定したラップで走り切ることを確認してレースに臨んだ。対戦相手は予選1位韓国のSong。予選タイムは2分30秒553で約3秒の差である。細谷は余裕を持ってスタートしたが、以降の加速が足りないままに1km通過。スプリットタイム1分19秒849であったが、スピードを上げていくことが出来ずにフィニッシュした。

●女子ジュニア スクラッチ

日本からは中村の出場。ローリングスタートの直後、インドネシアがアタックして単独で逃げる。2km以上独走が続くが、集団との差はあまり広がらなかった。これを中村は冷静に見極



女子スクラッチの中村

め、集団の中で先行する選手との距離を窺う。小刻みにアタックが繰り返され、インドネシアは吸収された。この間、集団の最後尾で温存している韓国（IP優勝者）をマークするよう指示。残り3周手前、韓国が集団前方へ位置取りを変え、スプリント態勢。第2センターから仕掛けて集団から抜け出した。韓国・香港・中村の並びであるが、韓国の加速に香港、中村が遅れをとってしまった。ゴールスプリントは中村と香港の2着争い。前に出る香港を差し切れず中村銅メダル。

●男子ジュニア 3km個人パーシュート

日本新を狙って臨んだ。予選での今村は入りの1kmは余裕を持ってペースを作り、ラップタイムを確認しながらスピードの微調整をしていく戦法をとった。1kmのスプリントタイムは1分13秒039。残り2kmを今村らしい高速巡行能力でフィニッシュしたが、入りの1kmが大きく影響して挽回出来ず、3-4位決定戦へ回ることとなった。

3-4位決定戦での今村は予選での反省を活かし、入りの1kmを1分11秒635、2kmスプリントタイム2分17秒637、その後もスピードが衰えることなく順調にペースを刻み、相手のマレーシアを早々と捉えた。最終週のベルが鳴り、いよいよ日本記録へと期待が高まり相手選手は目前に。結局、最終2センターで相手選手を追い抜き、号砲とともに競技終了。銅メダルを獲得したものの、完走タイムを残すことができず残念な結果となった。

●女子ジュニア スプリント

予選200mFTTは松井12秒689で3位、松本13秒010で6位通過となった。

1/4F、タイム順により日本勢での対決。1本目、予選タイムを上回る松井の先行。約1週の逃げ切り勝ち。続く2本目、インに松井アウトに松本。松井はスピードを上げて先行勝負を狙い

に行くが一瞬のスキを松本が見逃さず、タイミングよく先行した。松井は反応が若干遅れて差し切れず、松本の勝利。1対1となった。3本目、松井は1本目の反省から松本の動きを注視する。打鐘直前2センターから松本がインについてのロングスパート。ゴール直前、1/2車輪分まで追い込むが、僅かに届かず松本が勝利。敗退した松井は5-8位決定戦へ。

松本、1/2F対戦相手は予選2位の韓国KIM。1本目、インコースからスタートした松本、2周目の3コーナー付近から加速して勝負に出るが、スピードに優る相手に合わされて2着。2本目、アウトスタートの松本。上手く前に出て自分から仕掛ける態勢を確保した。打鐘時に一瞬のスキを相手に突かれ出遅れた。相手選手に距離を離されてのゴール。結果0-2で敗退し松本は3位-4位決定戦へ。

5-8位決定戦。香港・カザフスタン2名・松井で争われた。打鐘前、香港が4コーナー出口付近から先行を仕掛け、香港の番手に松井が付き好位置をキープ。2コーナーからバックストレートにかけて松井が先頭に出て、そのまま1着でゴールし5位が確定した。

松本の3-4位決定戦。対戦相手は予選12秒929で5位の台湾QIU。1本目、QIUがインコースで先を走った。打鐘前の2センターから松本がタイミングよく仕掛けて先行態勢、そのまま大きく引き離し勝利。2本目、先頭を走る松本。相手が前に出ようとする動きを制し、QIUは松本に追走するのが精一杯、そのまま寄せ付けず先行逃げ切りで堂々の銅メダルを獲得した。

2016.01.30

●男子ジュニア スプリント

予選200mFTTは中島10秒910で4位、伊藤11秒281で8位通過した。

1/8F中島は予選9位のZENG（台湾）と対戦。あと2周を通過し、2コーナーからZENGの様子を窺いながらのゆっくりとした先行。スプリント状態でもZENGに合わせる余裕を持ちながら危なげない勝利。伊藤は予選5位のLEUNG（香港）と対戦する組み合わせ。あと2周でLEUNGが先行。予選タイムから、このままの逃げ切りが決まるかと思われたが、伊藤のゴール前の差し脚が素晴らしく勝利。

1/4Fは中島・伊藤の対決となった。スピードに優る中島が2本とも危なげ

なく勝利し、中島は1/2F、伊藤は5-8位決定戦へ。中島の1/2Fの対戦相手は韓国のJEONGで、予選タイム1位の10秒391を記録した選手。1本目打鐘直前の4コーナーまでスロースピードで、お互いに様子を窺う状態が続いた。後方に位置するJEONGは大きく車間を開け、加速して中島に接近。中島もスピードを上げて相手に合わせた。並走したままスプリント状態に入りゴールし、JEONGが先着した。2本目はJEONGがスパートを仕掛ける際、前輪のグリップを失ったことが原因でタイヤが外れ落車。中島には何ら影響がなくフィニッシュ。そのまま試合は成立し1対1。3本目、インコーススタートの中島。1周目に相手が前に出た。中島がアウトから仕掛けるが、イン側でJEONGに合わせられ半車身分先行され、そのままの状態ゴール。中島の敗退が決定し、3-4位決定戦へ。

伊藤の5-8位決定戦、積極的に前に出て残り2周からスパートを仕掛けるが、上段からイランがスピードで上回り伊藤の前に出た。イラン、伊藤、カザフスタンの2名の並び、先行するイランに食い下がり、必死に追走するが抜くことが出来ず2着ゴール。伊藤の6位が確定した。

中島の3-4位決定戦の相手は予選3位のLAW（香港）。1本目、残り2周からLAWが先行し、キレの良いダッシュで中島を引き離した。最終の2センターで追いつき、追い抜きにかかるが僅かに及ばず2着。2本目、打鐘時にLAWがスパート、中島はアウト側から飛びつくように反応したが、目測を誤り接触して落車。押圧気味の状態となり再レースは認められず、LAWの勝利が成立。4位に終わった。

●女子ジュニア ケイリン

内村、細谷の両名とも第1ラウンドを危なげなく勝ち進み決勝へ。出走メンバー中スピードでは群を抜く韓国KWONが強力なライバル。スタートではKWON、内村、細谷、香港、台湾の並びとなった。ペーサーが離脱し、残り1周、内村が鋭いダッシュで先行。細谷が続くが、車間が空いたスペースにKWONと香港が続いた。更にKWONがスパートし香港、内村、細谷の並びとなった。KWONがそのまま逃げ切り、内村は香港との2着争いとなるが僅かに届かず銅メダル。続いて細谷は4着となった。（ジュニア育成部会）



女子スプリント日本人対決
photo: Hideaki TAKAGI

【競技結果】

第23回アジアジュニア自転車競技選手権大会
トラックレース
(2016/1/26-30 静岡県・伊豆ハートロード)
男子ジュニア

1km タイムトライアル

- 1 NA Junggyu KOR 1:03.535
- 2 沢田桂太郎 宮城 東北高 1:03.561
- 3 HSIEH Nien Hsing TPE 1:04.370



スプリント

- 1 JEONG Yunhyeok KOR
- 2 KIM Chengsu KOR
- 3 LAW Tsz Chun HKG



- 4 中島 詩音 山梨 甲府工業高
- 6 伊藤 歩登 兵庫 神戸弘陵学園高

ケリッ

- 1 KIM Chengsu KOR
- 2 JEONG Yunhyeok KOR
- 3 NALYOTOV Maxim KAZ



- 4 東矢 圭吾 熊本 千原台高
- 5 治田 知也 新潟 吉田高

3km 個人ハﾟｰシュート

- 1 KANG Taewoo KOR 3:24.666
- 2 LI Wen Chao TPE 3:28.100
- 3 今村 駿介 福岡 祐誠高 追抜勝



スクラッチ (10km)

- 1 BAE Daehyeon KOR 12:53
- 2 LEUNG Chung Pak Philip HKG
- 3 JAMSHIDAN S.A.S. IRI



脇本 勇希 福井 科学技術高 DNF

ポイントレース (25km)

- 1 今村 駿介 福岡 祐誠高 43p
- 2 EDY SUHAIDEE M.D.H. MAS 23p
- 3 WE Seokhyeon KOR 22p



チームスプリント

- 1 韓国 JEONG/NA/KIM 46.135
- 2 日本 中島・小原・治田 47.395
- 3 ｶﾞﾞﾌﾞｽﾀﾝ RUDER/NALYOTOV/PONOMARYOV 47.383



photo: hideaki TAKAGI

チームハﾟｰシュート

- 1 韓国 KANG/YOO/BAE/WE 4:15.164
- 2 日本 沢田・今村・曾我部・田川 4:17.323
- 3 ｶﾞﾞﾌﾞｽﾀﾝ MELNIKOV/SHEIN/GLAZUNOV/LESSECHKO 4:27.043



女子ジュニア

500m タイムトライアル

- 1 KIM Soohyun KOR 36.180
- 2 松井 優佳 鹿児島 南大隅高 37.970
- 3 QIU Jing Wen TPE 38.455



スプリント

- 1 KIM Soohyun KOR
- 2 KWON Serim KOR
- 3 松本 詩乃 東京 昭和第一学園高



- 5 松井 優佳 鹿児島 南大隅高

ケリッ

- 1 KWON Serim KOR
- 2 LI Yin Yin HKG
- 3 内村 舞織 鹿児島 南大隅高



- 4 細谷 夢菜 埼玉 浦和工業高

2km 個人ハﾟｰシュート

- 1 SONG Minji KOR 2:28.725
- 2 細谷 夢菜 埼玉 浦和工高 2:37.915
- 3 ROSDI Anis Amira MAS 2:34.701



photo: Sonoko TANAKA (この頁、チームスプリント以外全て)

Para Cycling (パラサイクリング)

スクラッチ (7.5km)

- 1 SONG Minji KOR 10:18
- 2 MA Yin Yu HKG
- 3 中村 愛花 福井 科学技術高



photo: Sonoko TANAKA

ポイントレース (20km)

- 1 LEUNG Hoi Wah HKG 38p
- 2 AKHMETCHA Rinata KAZ 20p
- 3 細谷 夢菜 埼玉 浦和工業高 18p



photo: Sonoko TANAKA

チームスプリント

- 1 韓国 KIM/KWON 36.133
- 2 日本 内村・松井 37.683
- 3 加*アスタ TIKHOVA/SANAKBAYEVA 38.250



チームパーシュート

- 1 韓国 KIM S/SONG/KIM H/KWAK 4:46.934
- 2 日本 細谷・松井・小林・中村 4:55.317
- 3 香港 LEUNG/LI/MA/LAU 追抜勝



photo: Sonoko TANAKA



MC1-3 個人パーシュートの藤田

第5回アジアパラサイクリング選手権大会トラックレースは、第36回アジア自転車競技選手権大会と並行して、1月26日～28日に静岡県伊豆ペロドロームで開催された。

日本、中国、マレーシアの3カ国から27名の参加で、大観衆のなか11種目の競技で熱戦が繰り広げられた。



MB 個人パーシュートの大城/照井



WB 1km タイムトライアルの鹿沼/田中 photo: Hideaki TAKAGI (この頁、3枚以外全て)

【競技結果】

**第5回アジア・パラサイクリング選手権大会トラックレース
(2016/1/26-28 静岡県・伊豆パドローム)**

MC1-5 1km タイムトライアル

- 1 LI Zhangyu CHN 1:04.088
- 2 XIE Hao CHN 1:07.303
- 3 WEI Guoping CHN 1:07.318



- 4 藤田 征樹 茨城 日立建機 1:07.439
- 6 石井 雅史 東京 みらい創造 1:07.891
- 10 相園健太郎 福岡 福岡大 1:12.458
- 12 川本 翔大 広島 JPCF 1:14.500
- 13 阿部 学宏 静岡 鈴与 1:15.870

WC1-5 500m タイムトライアル

- 1 LI Jieli CHN 37.165
- 2 ZHOU Jufang CHN 37.312
- 3 RUAN Jianping CHN 37.676



- 6 藤井 美穂 東京 楽天ソコ B 46.084

MB 1km タイムトライアル

- 1 RIZAN/MUHAMED SUFIAN MAS 1:05.440
- 2 大城竜之・照井拓成 JPN 1:06.080
- 3 ROMZI/RASOL MAS 1:10.660



WB 1km タイムトライアル

- 1 鹿沼由理恵・田中まい JPN 1:10.756



MC1-3 3km 個人パ^-シュート

- 1 藤田 征樹 茨城 日立建機 追抜勝
- 2 LI Zhangyu CHN OVT
- 3 LIANG Guihua CHN 追抜勝



- 4 相園健太郎 福岡 福岡大 OVT
- 5 川本 翔大 広島 JPCF 4:23.545

MC4-5 4km 個人パ^-シュート

- 1 LIU Xinyang CHN 追抜勝
- 2 石井 雅史 東京 みらい創造 OVT
- 3 WANG Xian CHN 追抜勝



- 4 阿部 学宏 静岡 鈴与 OVT

WC1-5 3km 個人パ^-シュート

- 1 ZHOU Jufang CHN 追抜勝
- 2 RUAN Jianping CHN OVT
- 3 ZENG Sini CHN 追抜勝



- 6 藤井 美穂 東京 楽天ソコ B 5:05.224

MB 4km 個人パ^-シュート

- 1 大城竜之・照井拓成 JPN 追抜勝
- 2 ROMZI/RASOL MAS OVT
- 3 RIZAN/ MUHAMED SUFIAN MAS 5:19.059



WB 3km 個人パ^-シュート

- 1 鹿沼由理恵・田中まい JPN 3:36.755



混合 C チームスプリント

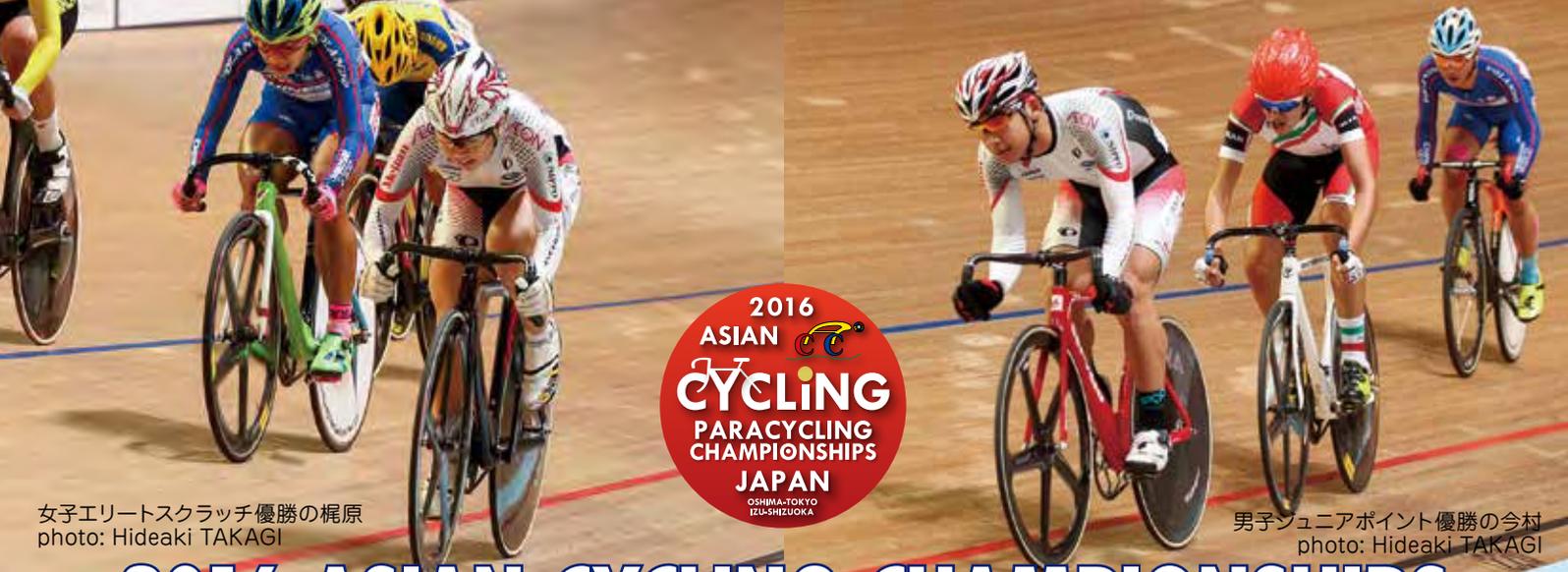
- 1 XIE/WANG/LIU CHN 52.089
- 2 藤田・石井・相園 JPN 53.866



MB タンデムスプリント

- 1 RIZAN/ MUHAMED SUFIAN MAS
- 2 大城竜之・照井拓成 JPN
- 3 ROMZI/RASOL MAS





女子エリートスクラッチ優勝の梶原
photo: Hideaki TAKAGI

男子ジュニアポイント優勝の今村
photo: Hideaki TAKAGI

2016 ASIAN CYCLING CHAMPIONSHIPS in JAPAN

男子エリートスクラッチ優勝の倉林
photo: Hideaki TAKAGI



男子エリートオムニアム優勝の橋本
photo: Sonoko TANAKA

無限の夢へ、走りだそう。
RINGIRING! プロジェクト

競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に投立られています。

くわしくはウェブで RINGIRING! (検索)

<p>< JCF オフィシャル・スポンサー ></p>	<p>< オフィシャル・サプライヤー ></p>
-----------------------------------	--------------------------------



シクリスムエコー No.217 2016年2月・3月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟
 発行人/橋本 聖子
 編集人/坂井田 米治
 編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局
 〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F
 TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

